

宮崎県文化財調査報告書

第 34 集

平成3年3月

宮崎県教育委員会

宮崎県文化財調査報告書

第 34 集

平成 3 年 3 月

宮崎県教育委員会

序

宮崎県教育委員会においては、文化財の保護及び文化財指定のための調査や、土木工事等諸開発事業によって発見された遺跡の緊急発掘調査の報告を毎年刊行して文化財に対する理解を頂いているところであります。

この度は、昭和63年度及び平成元年度調査の、小林市新田場地下式横穴墓群、国富町井野遺跡の二遺跡の発掘調査について集録しております。

本書が、社会教育・学校教育の場において広く活用され、あわせて学術研究上の資料として役立つことを期待いたします。

なお、調査にさいして御協力をいただいた地元の方々、及び市町村教育委員会の方々に深甚の謝意を表します。

平成3年3月

宮崎県教育委員会

教育長 児玉郁夫

例 言

1. この報告書は、宮崎県教育委員会が主体となって実施した埋蔵文化財発掘調査の一部を集録したものである。
2. 掲載している遺跡名・所在・調査期日・執筆者は下記のとおりである。
3. 本報告書の編集は宮崎県教育庁文化課がおこなった。

記

	遺 跡 名	所在地	調 査 期 間	調 査 担 当	執 筆 者
1	新田場地下式横穴墓群	小林市	昭和63年3月5日 ～3月7日	面高哲郎 長津宗重	面高哲郎 長津宗重
2	井野遺跡	国富町	平成元年11月10日 ～12月14日	岩永哲夫 穴戸章	岩永哲夫

総 目 次

1. 新田場地下式横穴墓群調査報告	1
2. 井野遺跡調査報告	23
付1. 平成2年度埋蔵文化財発掘調査一覧	37
付2. 平成2年発行 宮崎県市町村教育委員会発行 埋蔵文化財調査報告書一覧	46

SIN DEN BA

新田場地下式横穴墓群

例 言

1. 本報告は、昭和63年2月二原地区県営
ほ場整備事業実施中、小林市大字真方字
新田場において発見された地下式横穴墓
の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、宮崎県教育委員会が調査
主体となり、文化課主任主事（現主査）
面高哲郎・主任主事長津宗重の2名の担
当で昭和63年3月5日から7日まで実施
した。
3. 本報告の執筆は、第Ⅱ章第3節を長津宗
重、その他の執筆は面高哲郎がおこなった。
4. 出土した遺物は、宮崎県総合博物館埋
藏文化財センターで保管している。

本文目次

第I章 調査に至る経緯	1
第II章 調査の記録	3
第1節 新田場5号地下式横穴墓	3
第2節 新田場6号地下式横穴墓	8
第3節 新田場7号地下式横穴墓	10
第III章 まとめ	15

挿図目次

第1図 新田場地下式横穴墓位置図	1
第2図 新田場地下式横穴墓群遺構分布図	2
第3図 新田場5号地下式横穴墓遺構実測図	4
第4図 新田場5号・6号地下式横穴墓出土遺物実測図	6
第5図 新田場6号地下式横穴墓遺構実測図	9
第6図 新田場7号地下式横穴墓遺構実測図	12
第7図 新田場7号地下式横穴墓出土遺物実測図1	17
第8図 新田場7号地下式横穴墓出土遺物実測図2	18
第9図 新田場7号地下式横穴墓出土遺物実測図3	19

表 目 次

表 1 新田場 7 号地下式横穴墓出土遺物	16
-----------------------------	----

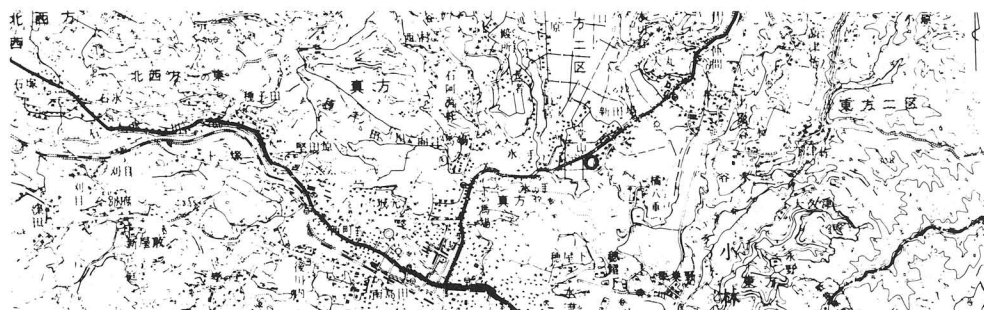
図 版 目 次

図版 1 新田場 5 号・6 号地下式横穴墓	5
図版 2 新田場 5 号・6 号地下式横穴墓出土遺物	7
図版 3 新田場 7 号地下式横穴墓遺構	13
図版 4 新田場 7 号地下式横穴墓出土遺物	20
図版 5 新田場 7 号地下式横穴墓出土遺物	21

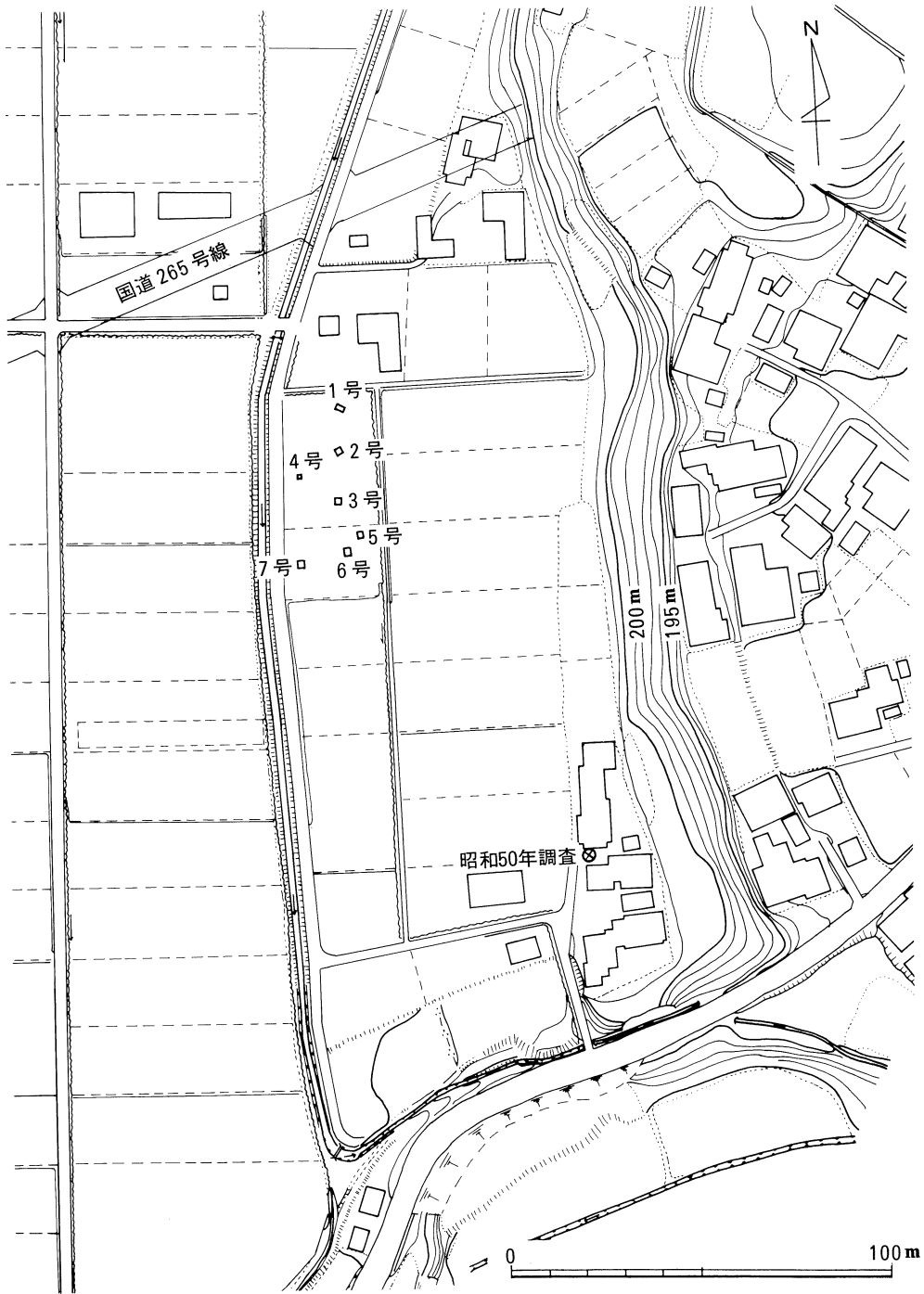
第 I 章 調査に至る経緯

小林市大字真方字新田場は二原台地の南端東縁部にあたる。当地では以前より住宅建設に伴う造成中などの際地下式横穴墓が発見されたり、また、昭和50年5月にも水道工事中に発見され、発掘調査が実施されている。二原台地では昭和57年度から二原地区県営ほ場事業が実施され、昭和61年度は台地南端の工事が実施された。西諸県郡農林振興局では現地調査を実施していたところ、地下式横穴墓が発見されたので工事を中断して県教育委員会及び小林教育委員会へ連絡すると共に昭和61年2月27日付けで遺跡発見通知を提出した。県教育委員会及び小林教育委員会の現地調査で発見された遺構は古墳時代の墳墓「地下式横穴墓」であることを確認した。当地ではその隣接地で県のは場整備に併せて個人による耕地整理を実施しており、その中でも地下式横穴墓が発見され、昭和61年2月27日付けで遺跡発見の届け出があった。工事により発見された地下式横穴墓の大半が玄室の天井は陥没していた。工事区内にこの他未確認の地下式横穴墓の存在が予想された。発掘調査は、工事再開前に発見された地下式横穴墓の周辺を含めて約2,000㎡を調査対象地として調査を実施することにした。発掘調査は、諸般の事情により県営ほ場整備事業にかかる部分については県教育委員会で、個人の部分については小林市教育委員会で調査することになった。県の調査は、昭和61年3月5日から7日までの間、面高哲郎・長津宗重の担当で、市の調査は、昭和61年3月3日から7日までの間、面高哲郎の担当で着手し、後に日高孝治、岩見典子の2名も調査に加わり予定の7日に終了した。

発掘調査により検出された地下式横穴墓は、個人の造成部分では4基、県営ほ場整備事業にかかる部分では3基の計7基で、今回報告する地下式横穴墓は、県が調査主体となった県営ほ場整備事業にかかる部分で、発見されたのは5～7号である。



第1図 新田場地下式横穴墓群位置図(○印)



第2図 新田場地下式横穴墓群遺構分布図

第 II 章 調査の結果

7基の地下式横穴墓は、二原台地の東縁が東に若干張り出し始めた付近の東縁より約70m位置で発見され、番号は、北の個人の工事部分から南に向かって付した。地下式横穴墓の主軸方向は、西方向の5号以外は概ね北方向で、北方向の地下式横穴墓はその間隔が9m~11mである。5号と6号は主軸がほぼ直行し、竪坑の間隔は3.5mであるが、玄室の奥壁間の距離は約1.5mである。

第 1 節 新田場 5 号地下式横穴墓

(1) 遺 構 (第 3 図)

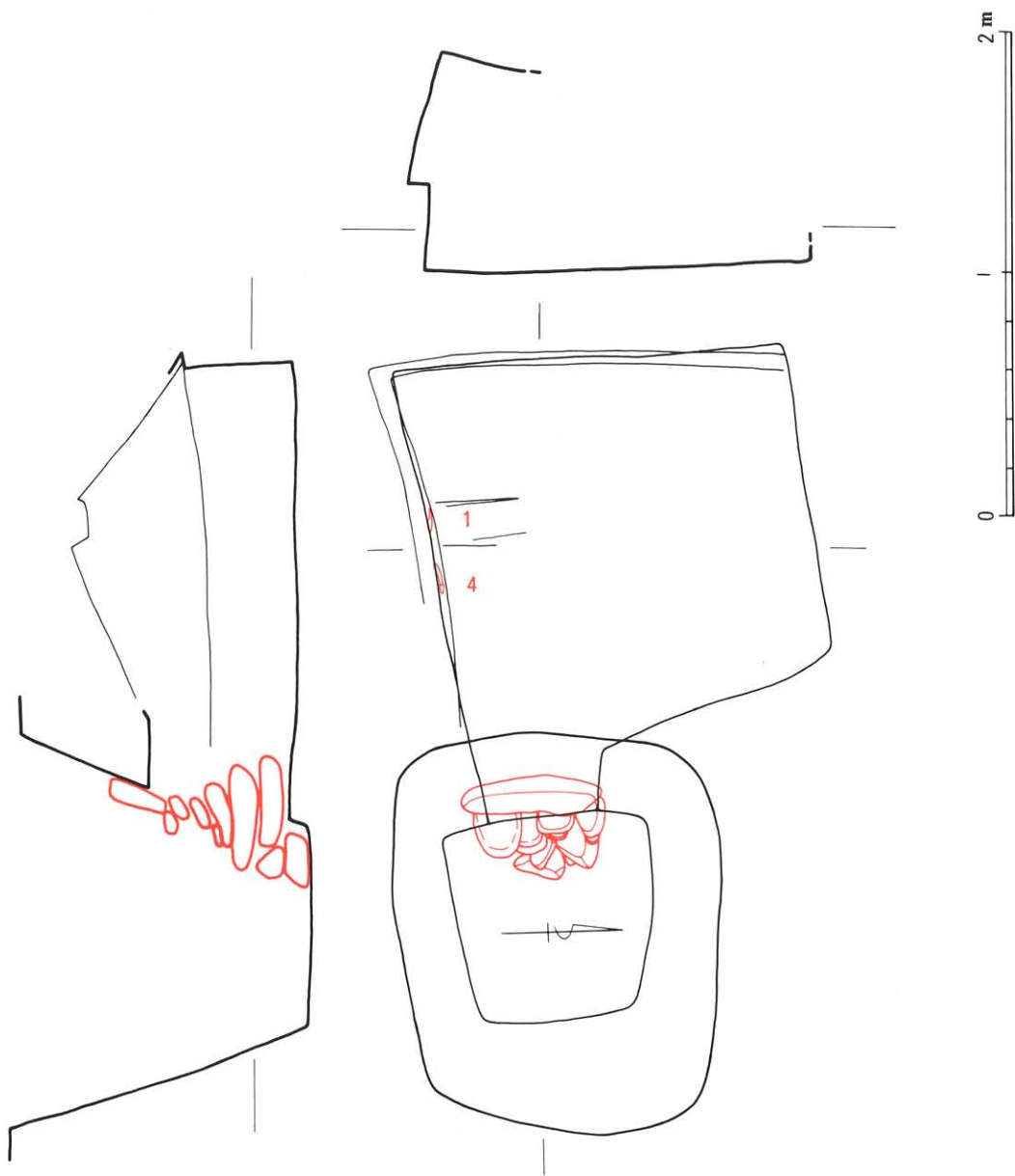
主軸方向は概ね西方向で、構造は片袖のP字形を呈している。羨道は、竪坑より8cm程高くなり玄室へ続く。玄室は長方形に近い梯形で、天井部が陥没しているが切妻造りである。一部棟木のレリーフが見られた。閉塞は、羨門閉塞で河原石を水平に積み重ねている。羨道の左壁に塗朱が認められた。奥壁と左壁に高さ35cm幅8~10cmの棚状施設を持つが、左壁の棚状施設は、羨道より60cm程は完全に崩落し、他の部分についても一部崩落している。5号地下式横穴墓の各部の計測値は次のとおりである。竪坑は長方形で、上端160cm×134cm、下端85cm×82cm、深さ121cm、羨道は、長さ27cm、幅約50cm、高さ57cmである。玄室は、奥行272cm幅156cmで左辺160cm右辺126cmと右辺が短くなっている。棟木のレリーフは幅14cmで約2.5cm程削り出している。

竪坑の埋土は、地下式横穴墓の構築時の廃土であるアカホヤ、黒褐色土、褐色土のブロック等を含む黒色土である。埋土はアカホヤ、黒褐色土、褐色土のブロック等の大きさ、混入度、しまりぐあいなどから3層に分けられ、第I層は、10cm前後から小さめのアカホヤや褐色土のブロックを含む黒色土で厚さ約105cm、ややしまりが無い。第II層は閉塞石周辺にあるややしまりのない混土、第III層は最下層ではほぼ水平に堆積し、第I層と同じ様な混土であるが、褐色味が強く、堅くしまっている。

人骨は、まったく残存していない。

(2) 遺 物 (第 4 図)

出土した遺物は、剣3、鉄鏃3、刀子4、鉈1、曲刃鎌1、鉄製方形鍬先1で、出土状況は、左壁の棚状施設上で鉄鏃(No.1)、刀子(No.4)が出土している。他の遺物は、羨



第3図 新田場5号地下式横穴墓遺構実測図



5号地下式横穴墓閉塞状況（東から）



6号地下式横穴墓竖坑検出状況（南から）



5号地下式横穴墓羨道（東から）



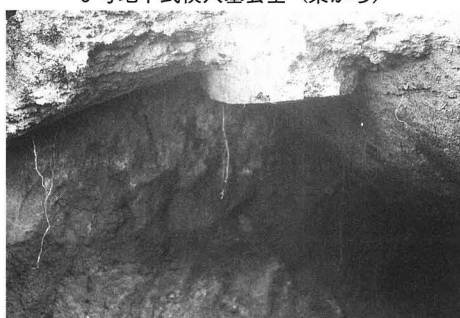
6号地下式横穴墓竖坑断面（西から）



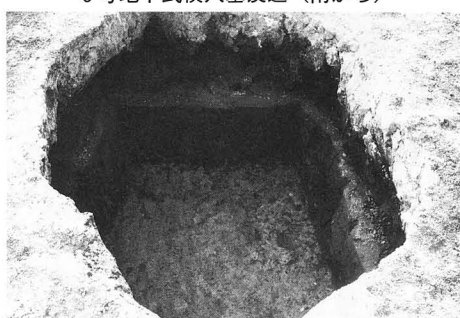
5号地下式横穴墓玄室（東から）



6号地下式横穴墓羨道（南から）

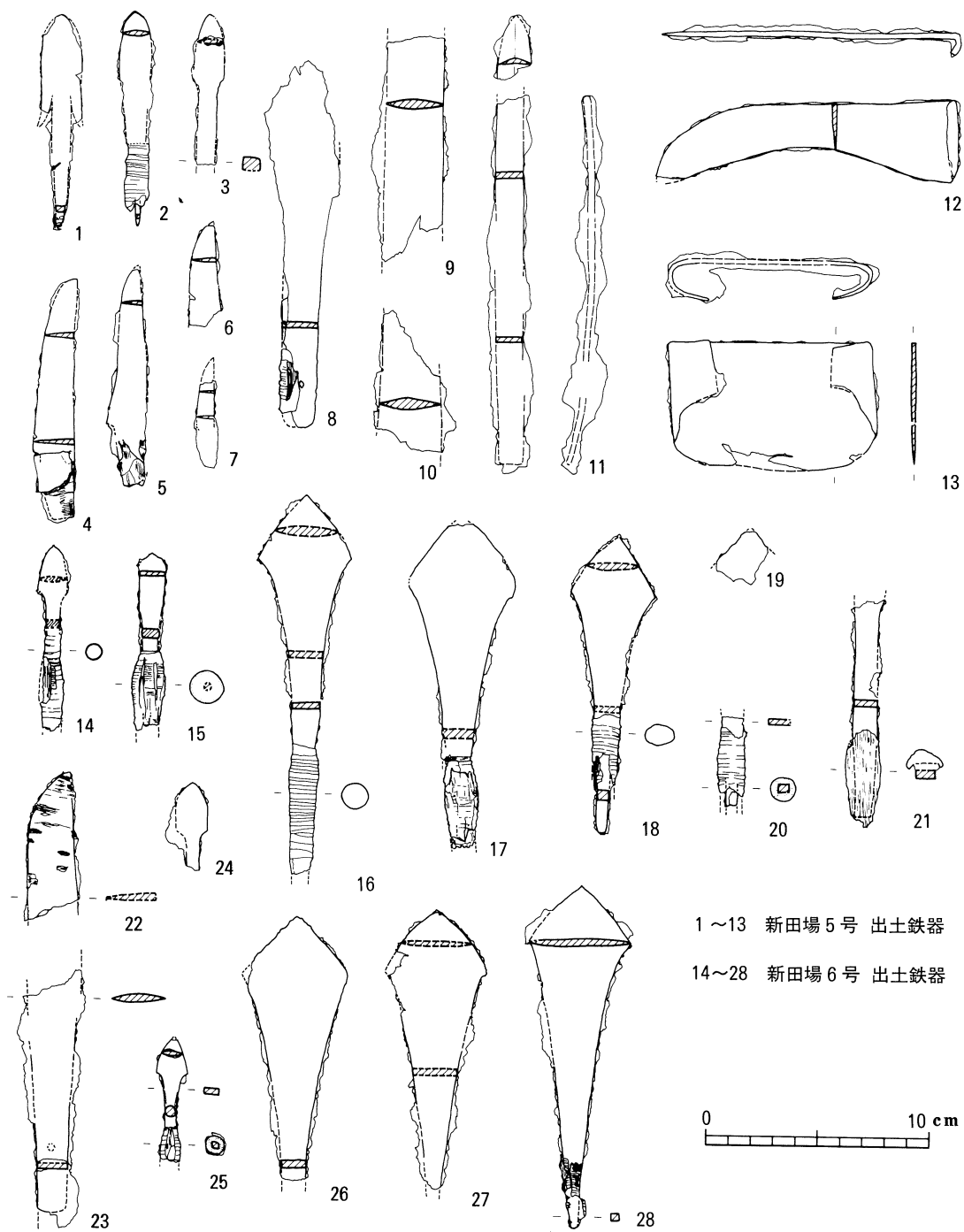


5号地下式横穴墓天井棟柱レリーフ（北から）



6号地下式横穴墓玄室（東から）

図版 1 新田場 5・6号地下式横穴墓



第 4 図 新田場 5 号・6 号地下式横穴出土遺物実測図



番号は、実測図に同じ、5号出土（1～13）6号出土（14～28）

図版2 新田場5号・6号地下式横穴墓出土遺物

道より60cm程の位置の左壁の棚状施設下で崩落土等の中から出土しているが、本来左壁の棚状施設に置かれていたと推定される。

剣：剣3点は、破片であるが同一個体の可能性がある。8は現長16.7cm、茎長10.5cmで目釘孔は1ヶ所である。9は現長10.1cm、身幅2.5～2.7cm、10は現長6.2cm、身幅3.1cmである。

鉄鏃：1は一段逆刺の腸扶柳葉式で全長9.7cm、鏃身部4.3cm、鏃身部幅1.7cm、2は柳葉式で全長9.8cm、鏃身部6.0cm、鏃身部最大幅1.5cm、3は長頸鏃の長三角形鏃で頸部が一部欠損している。現長6.8cm、鏃身部2.9cm、鏃身部最大幅1.4cm、頸部現長3.8cm、頸部幅0.8cmである。

刀子：4は全長11.1cm、身長8.3cm、身最大幅1.9cmで幅1.7cmの鋸を持つ。5は鋒先が一部欠損し、現長9.8cm、身現長7.0cm、身最大幅1.8cm、6は現長4.6cm、身最大幅1.5cm、6は現長3.9cm、身最大幅0.8cmである。

鉞：2つに折れている。刃部は現長2.8cm、幅1.5cmで鑄が微かに見られる。茎部は、現長16.6cm、幅1.2cm、厚さ0.3cmで木柄が残存している。

鎌：12は刃部が内反りし、刃先が尖り、木柄着装は身に対して直角に折り返えず曲刃鎌で、刃先が一部欠損している。刃部長11.3cm、身最大幅3.2cmである。

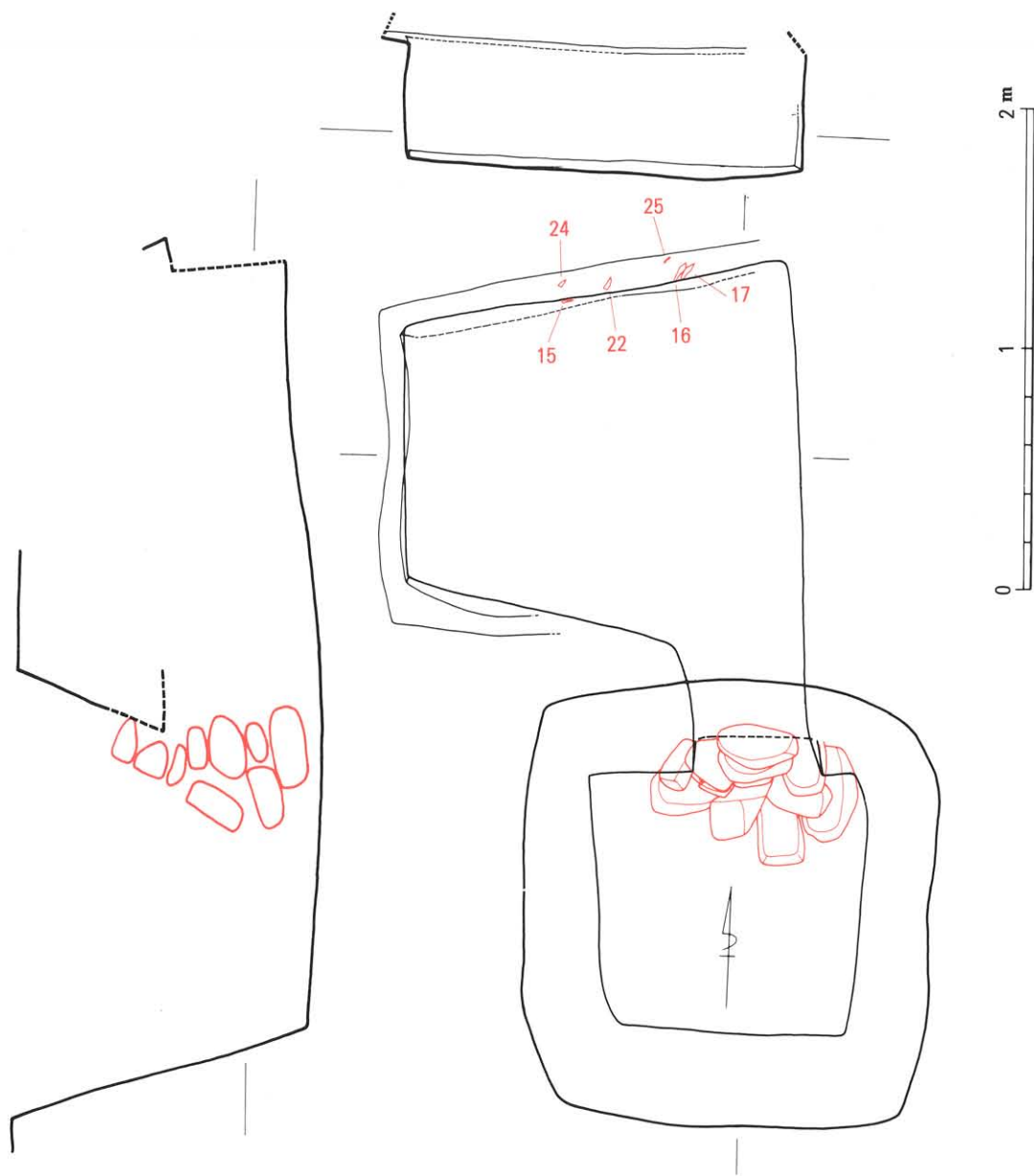
鉄先：13は、長方形鉄板の両端を折り曲げて袋部をつくっている鉄製方形鉄先である。刃部幅9.2cm、幅5.8cmである。

第2節 新田場6号地下式横穴墓

(1) 遺構(第5図)

主軸方向は概ね北方向で、構造は片袖の逆P字形を呈している。玄室は梯形で、天井部は陥没しているが寄棟造りと推定される。閉塞は、羨門閉塞で河原石を床面より約6cmの位置から水平に積み重ねている。奥壁と右壁等の三方に高さ47cm幅約8～13cmの棚状施設を持つが、一部崩落している。6号地下式横穴墓の各部の計測値は次のとおりである。竪坑は長方形で、上端185cm×167cm、下端108cm×109cm、深さ125cm、羨道は、長さ57cm、幅約47cm、高さ65cmである。玄室は、奥行156cm幅164cmで右辺156cm左辺103cmと左辺が短くなっている。

竪坑の埋土は、地下式横穴墓の構築時の廃土であるアカホヤ、黒褐色土、褐色土のブロック等を含む黒色土である。埋土はアカホヤ、黒褐色土、褐色土のブロック等の大きさ、混



第5図 新田場6号地下式横穴墓遺構実測図

入度、しまりぐわいなどから4層に分けられ、第I層の厚さ約90cmでややしまりが無い。第II、III、IV層は、羨道に向かって傾斜し、しまっており、とくに第IV層は良くしまり堅固である。閉塞石は、第II、III、IV層の上から積まれている。

人骨は、まったく残存していない。

(2) 遺物 (第4図)

出土した遺物は刀1、剣1、鉄鏃11、鉈1で、出土状況は、奥壁の棚状施設上で刀先(No.22)、鉄鏃(No.15、No.16、No.17、No.24、No.25)、床面で鉄鏃(No.14)が出土した。その他の遺物は、奥壁より崩落土等の土で出土している。奥壁の棚状施設は、一部崩落しているので崩落土等の中で出土した遺物は、奥壁の棚状施設に置かれていた可能性がある。

刀：22は、刀の刃先で現長6.8cm、身幅2.1cmで幅4mmの縦方向に筋のはいる物が巻かれている。

剣：23は剣の茎部で目釘孔が1ヶ所あり、現長11.2cm、茎最小幅1.5cmである。

鉄鏃：鉄鏃は11本出土している。茎部の樹皮の残存しているものもある。14、24、25は長頸鏃の三角形鏃で、14は全長8.3cm、鏃身部2.1cm、鏃身部最大幅1.3cm、頸部全長2.3cm、頸部幅0.7cm、24は現長3.8cm、鏃身部2.1cm、鏃身部最大幅1.4cm、頸部幅0.7cm、25は現長5.5cm、鏃身部現長1.5cm、鏃身部最大幅1.4cm、頸部長2.4cm、頸部最小幅0.5cmである。

16~19、26~28は変形圭頭斧箭式鏃で鏃身部と茎部を区分する明瞭な関部は見られない。小型の15以外は大型である。15は全長8.0cm、鏃身部4.4cm、鏃身部最大幅1.3cm、16は全長17.1cm、鏃身部11.3cm、鏃身部最大幅4.1cm、17は現長14.7cm、鏃身部現長10.6cm、鏃身部最大幅4.8cm、18は現長13.5cm、鏃身部8.6cm、鏃身部最大幅3.9cm、26は現長11.9cm、鏃身部最大現幅4.3cm、27は現長12.5cm、鏃身部最大幅4.1cm、28は全長15.5cm、鏃身部11.2cm、鏃身部最大幅4.5cm、29は変形圭頭斧箭式鏃の刃部片で現長2.4cmで、20は鏃の茎で現長3.6cmで19・26・27の茎部と考えられる。

鉈：刃部が欠損している。現長9.9cm、幅1.0cm、厚さ0.3cmで木柄が残存している。

第3節 新田場7号地下式横穴墓

(1) 遺構 (第6図)

7号地下式横穴墓は、調査された7基の地下式横穴墓の中では南西端部に位置している。天井部は既に落盤していたので、玄室内の流入土の除去と竪坑の検出作業・掘り下げ作業

を行った。

その結果、竪坑の規模は上場が165cm×164cm、下場が109cm×108cmの正方形プランで、検出面（アカホヤ面）からの深さは120cmであり、断面は逆台形である。

羨門部は16個の河原石を使って長さ100cm、幅57cm、高さ74cmの厚みで閉塞されている。竪坑から玄室に向って緩やかに傾斜しており、羨門部幅56cm、玄門部幅59cm、羨道部の高さ74cmである。

玄室は左袖の片袖式で、左袖が83cm、右袖は僅かに6cmの袖がある。床面は奥行124cm、幅155cmの長方形プランである。天井部の高さは現存が84cmであり、壁面の棚状施設の高さは50cm、副葬品が多数置かれている左壁面の幅は18cmであるのに対して、奥壁の幅は10cm～15cm、左壁の幅は4cm～6cmである。

玄室の主軸はN-23° - Eである。

(2) 竪坑の土層

竪坑はアカホヤ上面で検出された。竪坑の埋土はI層が暗褐色土層（アカホヤ粒子とIV層粒子を多く含む。）、II層が暗褐色土層（アカホヤ粒子が多く、緻密である。）、III層が黄褐色土層（アカホヤ粒子を若干含む、緻密である。）である。埋土の厚さはI層が68cm～73cm、II層が25cm～32cm、III層が23cm～24cmである。

(3) 遺物

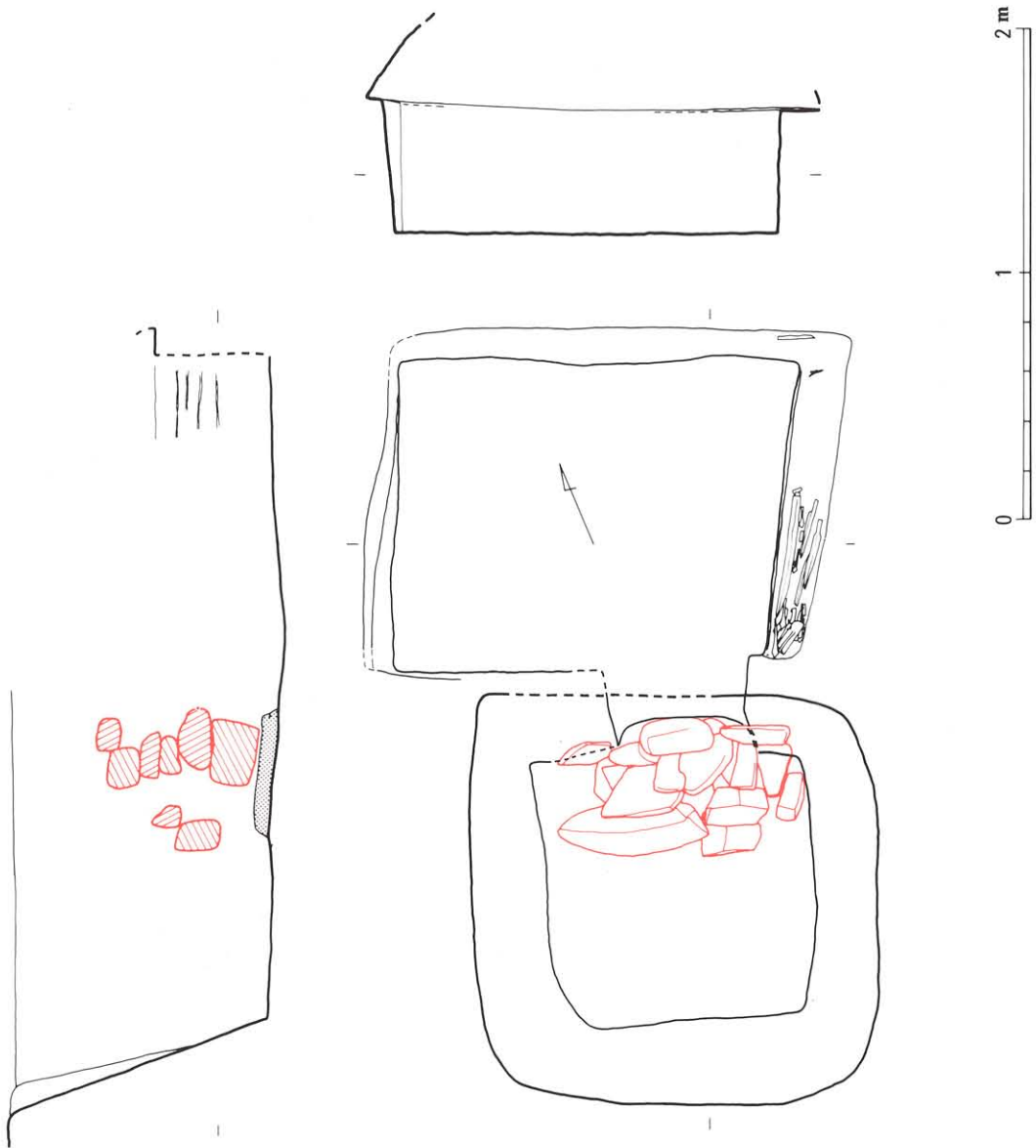
副葬品はすべて鉄器で、剣・鏃の武器、鍬先・鎌の農具、刀子・斧・鉈の工具、釣針の漁具の組み合わせである。

42の刀子は左壁際の床面から、4の短剣が奥壁の棚状施設の右隅から出土しているが、その他はすべて右壁の棚状施設の羨道部側の隅に斧・鎌・鉈・鏃・釣針などが重なりあうようにして出土しているのに対して、剣は棚状施設の中央部から羨道部隅にかけて4本並べている。斧の刃部と鎌の切先が奥壁に向いているのに対して、残りの剣・鏃などの切先はすべて羨門部に向いている。また線刻のある鉄鏃15と16は長剣1の先に2本重ねて置かれている。小形の変形圭頭斧箭式鏃は剣1と剣5の間から出土している。

鉄器

剣（第7図）

剣は5本出土しており、1が全長61.9cmの長剣であるのに対して、他の4本は20cm～35cmの短剣である。1は全長61.9cm、身長49.6cm、身幅2.8cmであり、柄には木質部が僅かに残



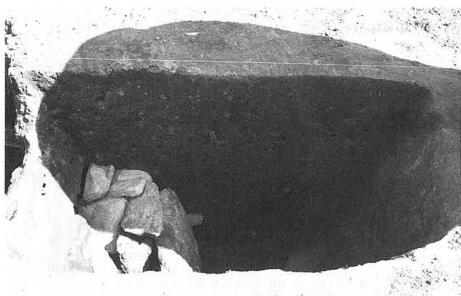
第6図 新田場7号地下式横穴墓遺構実測図



7号地下式横穴墓（南から）



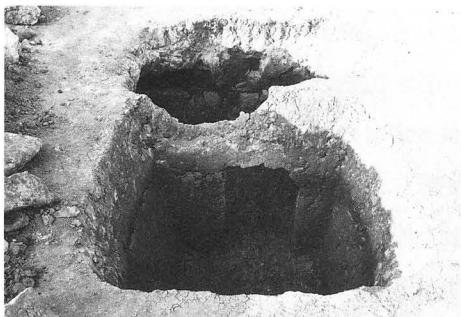
7号地下式横穴墓玄室（北から）



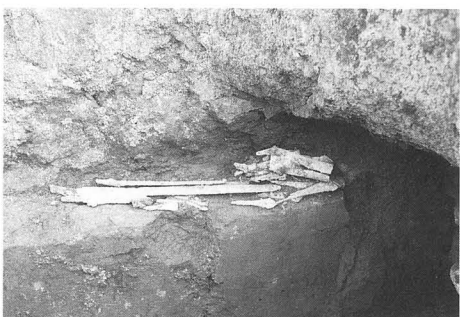
7号地下式横穴墓豎坑断面（西から）



7号地下式横穴墓玄室（西から）



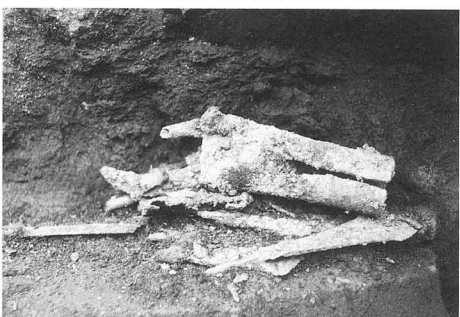
7号地下式横穴墓玄室（北から）



7号地下式横穴墓右棚状施設上遺物



7号地下式横穴墓羨門（南から）



7号地下式横穴墓右棚状施設上遺物

図版3 新田場7号地下式横穴墓遺構

存している。2は現長29.7cm、身幅2.5cmである。3は全長34.2cm、身長26.2cm、身幅3.4cmであり、柄には木質部と紐巻が残存し、目釘孔が1個有する。4は全長21.5cm、身長19.4cm、身幅2.2cmである。5は全長22.0cm、身長16.4cm、身幅1.8cmであり、柄には目釘孔が1個有し、鞘の木質部は片側が約8割残存している。

鉄鏃（第7・8図）

鉄鏃は31本出土しているが、その内2本は鏃身部が折れており、型式は不明である。6は二段逆刺の腸扶柳葉式、7～10は柳葉式、11～13は圭頭式、14は円頭斧箭式、15～34・45は変形圭頭斧箭式鏃である。

6は茎部が折れているが、二段逆刺は良く残っており、現長9.2cm、鏃身部7.7cmである。

7～9は切先付近が丸味を帯びている。10は切先が7～9より更に丸味を帯びている。

15～34の変形圭頭斧箭式は鏃身部の長さから大形のグループ（長さ10.0cm～11.1cm、幅3.7cm～4.6cm）、中形のグループ（長さ6.5cm～9.0cm、幅2.7cm～3.9cm）、小形のグループ（長さ4.1cm～5.2cm、幅1.9cm～2.4cm）に分かれる。更に刃部の圭頭の幅と高さからAグループ（幅3.3cm～4.3cm、高さ1.8cm～2.5cm）、Bグループ（幅2.4cm～3.7cm、高さ1.1cm～1.8cm）、Cグループ（幅1.9cm、高さ0.9cm）に分かれる。15は刃部の先端が折れているが、現長15.5cmと大型鏃であり、鏃身部にタガネの蹴り彫りの技法を用いて直径9mmの円を描き、その中心に丸タガネで点を打ち、その円の下位に長さ10mmの縦方向の直線をタガネで施している。茎部には紐巻が残存している。29は刃部が折れているが、鏃身部に縦方向の長さ7mmの縦方向の直線をタガネで施している。29も15と同じ線刻を有する可能性がある。31は全長9.2cm、鏃身部に直径3mmの穿孔を1個有する。線刻を施した15と29は大形のグループに属するが、穿孔を施した31は中形に属する。

鏃先（第9図）

37は長方形鉄板の両端を折り曲げて袋部を作っているが、木製台部の木質部は遺存していない。袋部の断面はくさび形を呈している。刃部幅9.1cm、長さ4.5cmである。

鎌（第9図）

38は刃部が内反りし、刃先が尖る曲刃鎌で、木柄着装部は身に対して直角に折り返している。刃部の長さ16.4cm、幅2.2cmである。

刀子（第9図）

茎刀子は2本出土している。41は直背で刃部には関をつくり、関は刃に対して斜行して

いる。41は全長10.0cm、身長6.9cm、身幅1.5cmである。42は全長7.7cm、身幅1.3cmである。

斧 (第9図)

39は無肩の袋状鉄斧で、袋部の断面は楕円形で、袋部の合わせ目はぴったりと閉じていない。平面形は袋部がほぼまっすぐに伸び、刃部から刃先部に向かって緩く弧を描きながら広がる。刃部には繊維状のものが付着している。長さ15.0cm、刃部幅5.8cm、袋部幅4.5cm、同厚み4.0cmである。

鉞 (第9図)

40は刃部の先端が折れており、刃部は反りをもつ断面三日月形で、刃部幅が狭くて短い刃部を有する。茎部には木質部が遺存しており、その上から樹皮を横巻きにして固定している。現長10.5cm、刃部現長2.8cm、刃部幅1.4cmである。

釣針 (第9図)

43は全長2.9cm、軸部と針先間の幅は1.0cmの小形の無鏤釣針である。軸部に紐を巻き付けた痕跡がある。

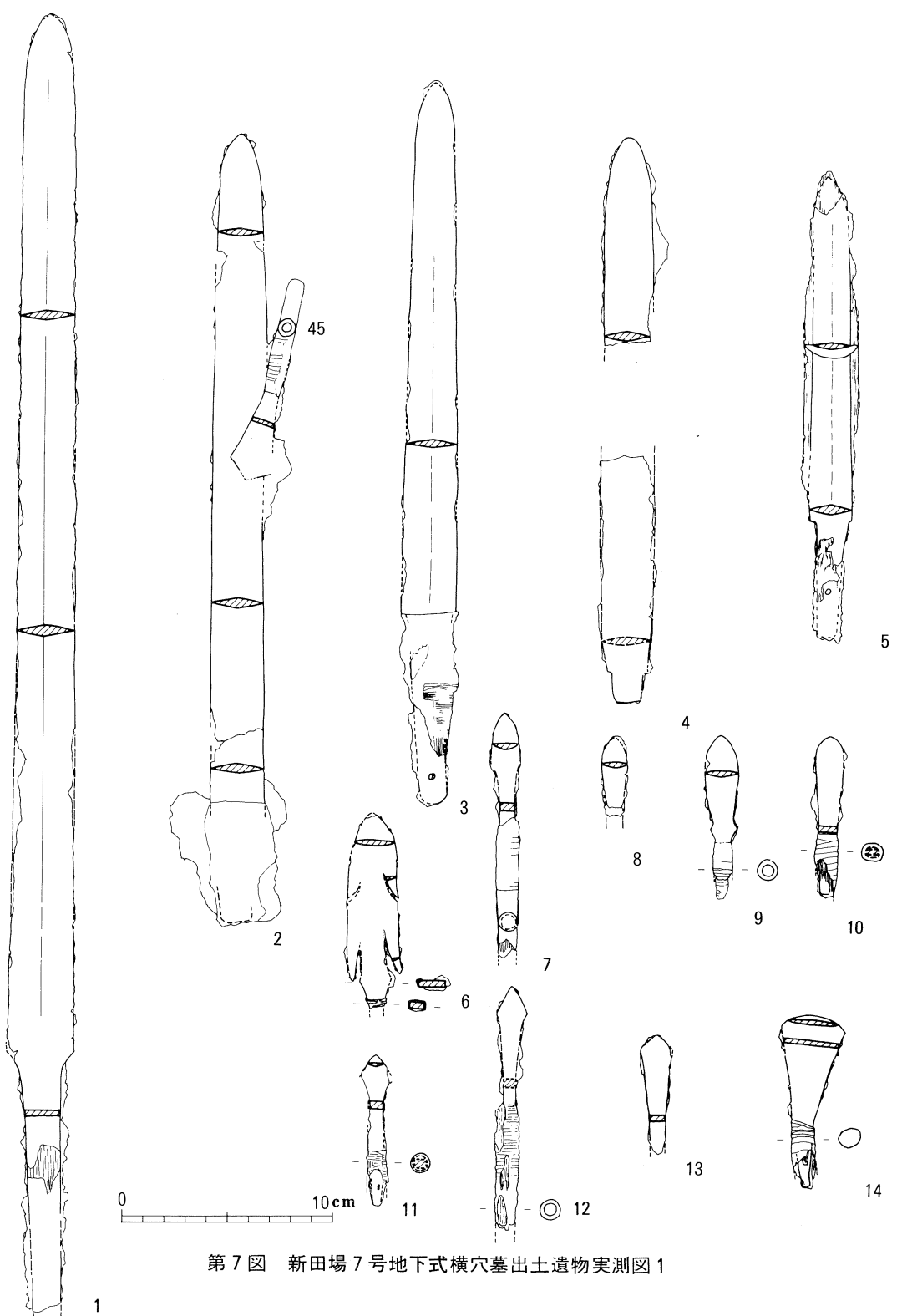
第 III 章 ま と め

地下式横穴墓5号～7号の構造は、羨道が片袖のP字形で閉塞は礫を使用し、玄室の平面形は方形ないし梯形である。内部施設として棚状施設をもつ。副葬品は、剣、刀、鉄鏃、刀子、鉞、鉄製方形鏃先、曲刃鏃、釣針等で鉞、鉄製方形鏃先、曲刃鏃の農工具の出土は注目される。釣針は地下式横穴墓からは初めての出土例である。今回報告していない1号～4号の構造は、1号が両袖の板閉塞で、2・3号が片袖のP字形で礫閉塞、4号は竪坑上部閉塞の片袖であり、1号以外は5号～7号の構造に類似し、副葬品も4号で鉄製方形鏃先が出土し副葬品の組み合わせは類似している。

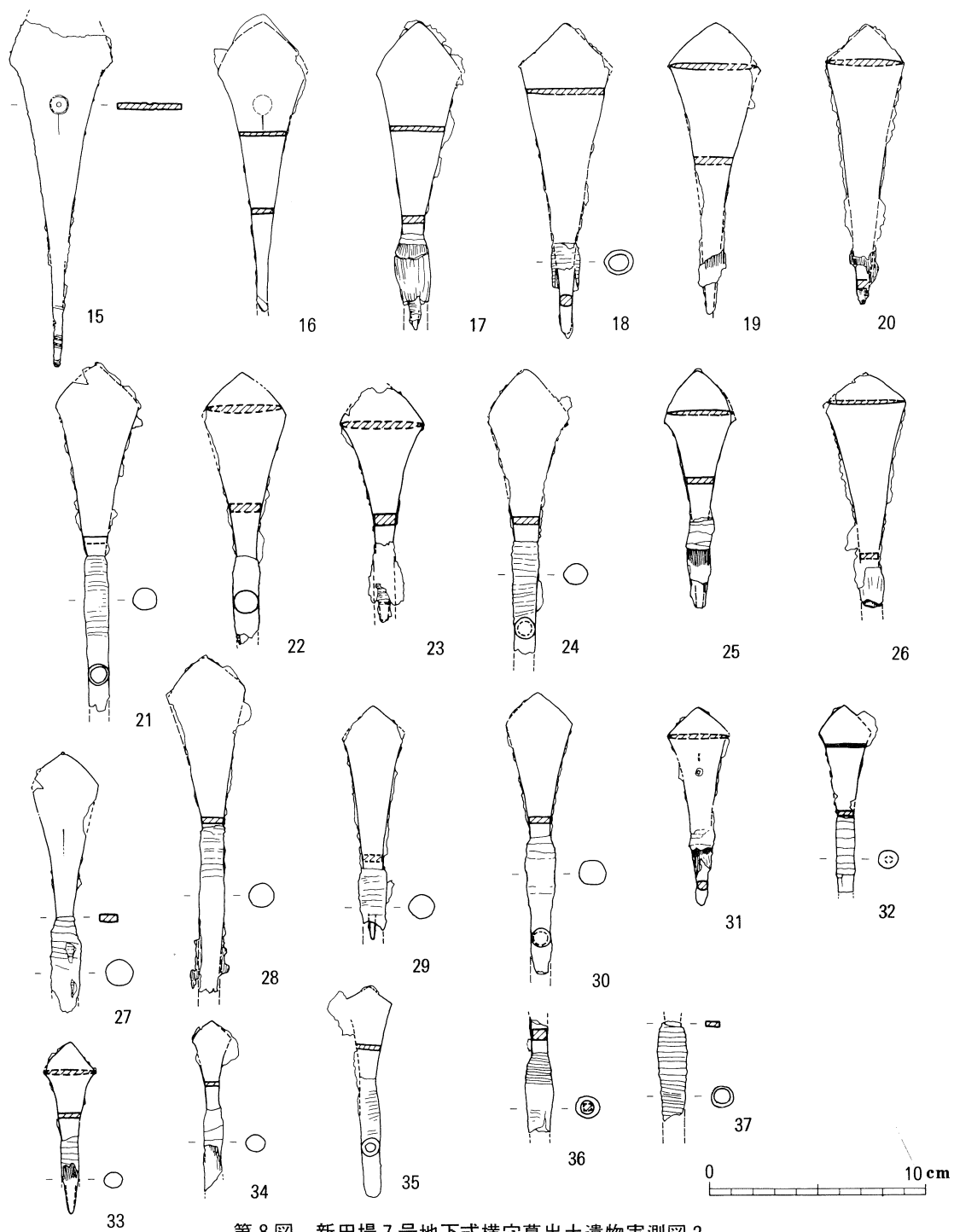
地下式横穴墓5号～7号の築造の時期は、副葬品の組み合わせ及び鉄鏃の形式等から古墳中期後半頃と考えられる。

第1表 7号地下式横穴墓出土鉄鏃計測表

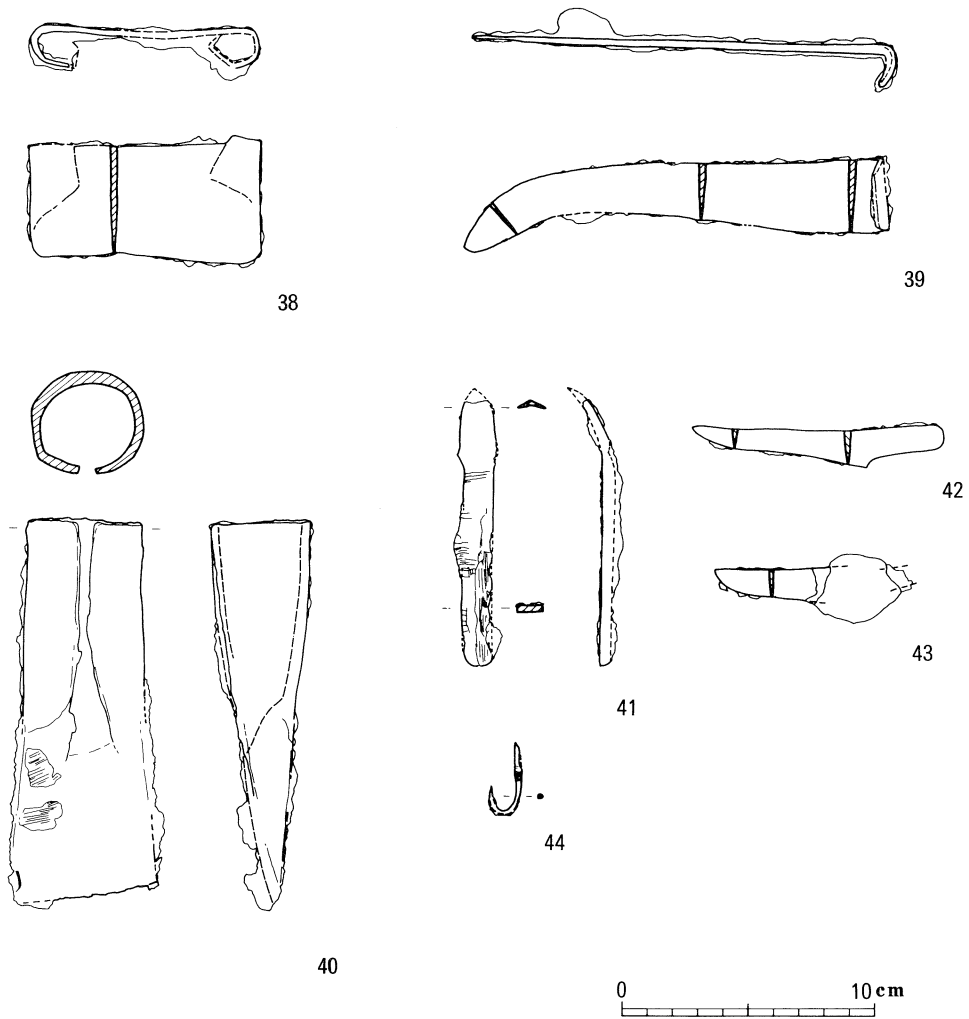
番号	型式	出土位置	現存長(cm)	身長(cm)	身幅(cm)	矢柄の残存	備考
6	二段逆刺 腸扶柳葉式	右棚状施設	9.2	8.8	2.1		
7	柳葉式	〃	11.7	5.0	1.3	竹・樹皮卷	
8	柳葉式	〃	3.8	3.8+ α	1.3		
9	柳葉式	〃	7.8	5.1	1.6	樹皮卷	
10	柳葉式		7.7	4.3	1.3	樹皮卷	
11	圭頭式	右棚状施設	7.2	4.7	1.2		
12	〃	〃	11.6	5.7	1.9	竹・樹皮卷・木質?	
13	〃	〃	5.7	5.7+ α	0.8		
14	円頭斧箭式	〃	8.2	5.1	3.0	竹・樹皮卷	
15	圭頭斧箭式	〃	15.5	12.6+ α	4.7	紐卷	刻印 ♀
16	〃	〃	11.7	9.5+ α	3.9+ α		刻印 ♀
17	〃	〃	14.4	10.4	4.0	竹・樹皮卷	
18	〃	〃	14.7	10.2	4.1	樹皮卷	
19	〃	〃	13.7	10.7	3.8+ α	竹?	
20	〃	〃	13.1	8.2	3.6	木質	
21	〃	〃	16.2	9.0	3.9	竹・樹皮卷	刻印 1
22	〃	〃	12.6	8.5	3.7+ α	樹皮卷	
23	〃	〃	10.7	7.0+ α	3.9	樹皮卷	
24	〃	〃	13.3	8.0	3.7	竹・樹皮卷	
25	〃	〃	11.1	7.1	3.2+ α	竹・樹皮卷	
26	〃	〃	10.5	8.5	3.1+ α	樹皮卷	
27	〃	〃	12.0	7.6+ α	2.6+ α	樹皮卷	刻印 1
28	〃	〃	15.7	8.0	3.7	竹?・樹皮卷・木質	
29	〃	〃	10.9	7.6	2.7	樹皮卷	
30	〃	〃	13.2	6.8	3.1	竹・樹皮卷	
31	〃	〃	9.2	6.6	2.7+ α	木質	穿孔1、刻印?
32	〃	〃	8.7	5.2	2.4	樹皮卷	
33	〃	〃	8.0	3.9	2.3+ α	竹・樹皮卷	
34	〃	〃	8.0	3.8	1.9	樹皮卷・木質?	
35	〃	〃	9.8	4.3	2.0	樹皮卷	
36	〃	〃	5.4	1.7+ α		竹・樹皮卷	
37	〃	〃	4.2			樹皮卷	



第7図 新田場7号地下式横穴墓出土遺物実測図1



第 8 图 新田場 7 号地下式横穴墓出土遺物実測図 2

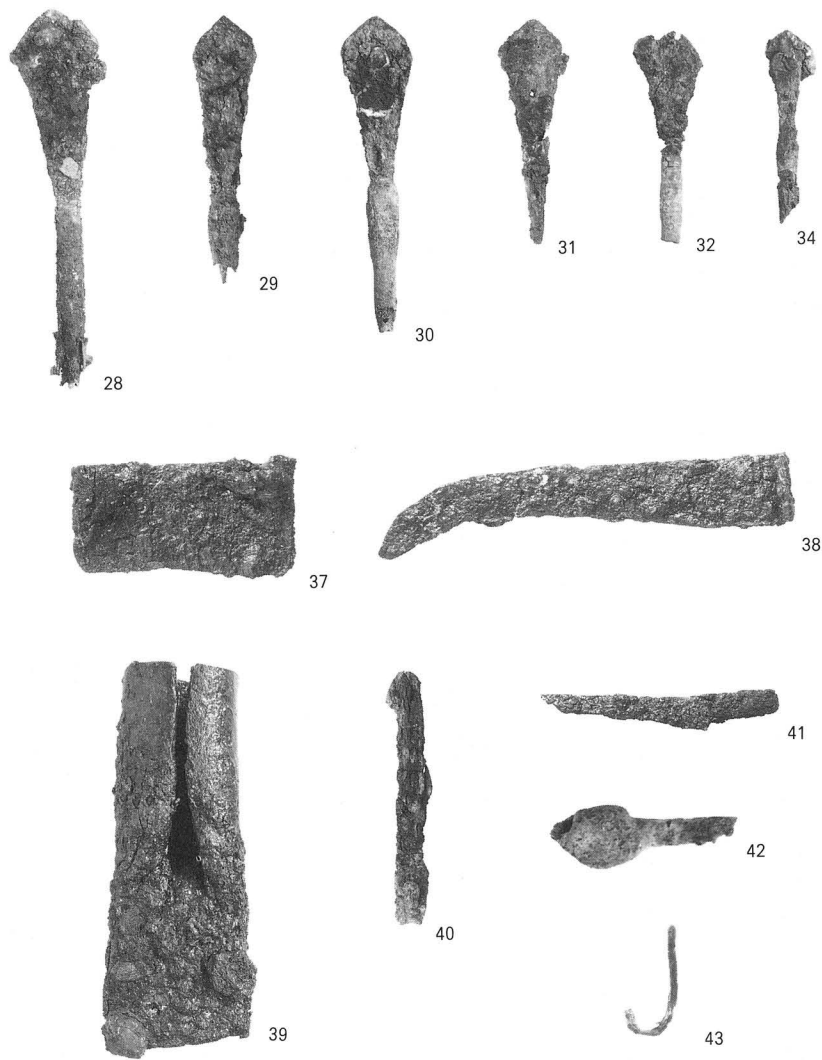


第9図 新田場7号地下式横穴墓出土遺物実測図3

图版
4



图版 4 新田場 7 号地下式横穴墓出土遺物 (I)



図版 5 新田場 7 号地下式横穴墓出土遺物 (II)



I NO 井 野 遺 跡

例 言

1. 本報告は、県営広域営農団地農道整備事業沿海中部Ⅱ期地区建設工事に伴い平成元年11月10日から同12月14日にかけて県教育委員会が実施した井野遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本報告の執筆・編集は県教育庁文化課埋蔵文化財係長岩永哲夫が行い、石材の同定は同主査穴戸 章が行った。
3. 出土品は埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

1. 遺跡の位置と調査に至る経緯	23
2. 調査の概要	25
3. 遺構と遺物	27
(1) 遺構	27
(2) 遺物	29
4. まとめ	29

挿図目次

第1図 井野遺跡位置図	23
第2図 発掘調査区全体図	24
第3図 土層断面図 (1)	25
第4図 土層断面図 (2)	26
第5図 集礫出土状況実測図	27
第6図 出土石器の土層断面 (1) への投影図	28
第7図 出土石器実測図	28

表 目 次

表 畦原型細石核計測表	29
-------------------	----

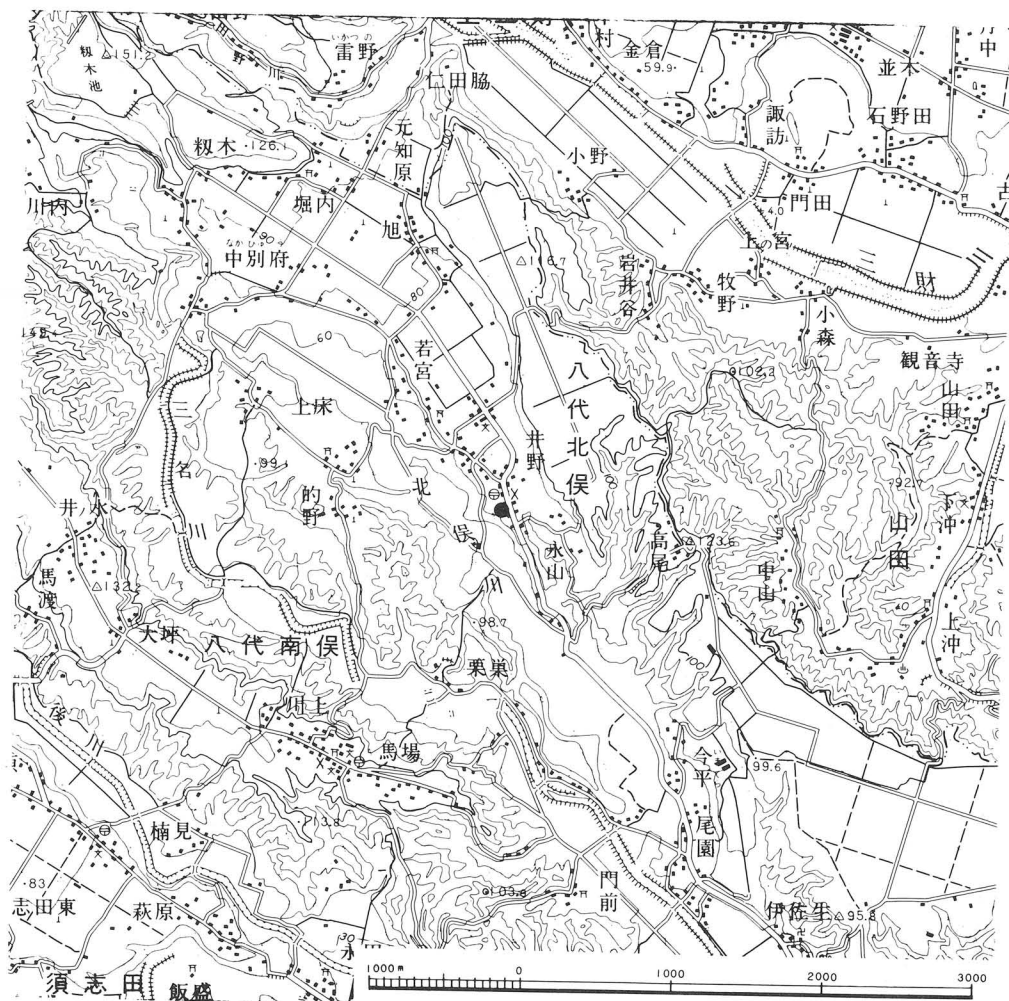
図 版 目 次

図版 1 発掘風景（県道側から西をみる）	31
図版 2 発掘風景（西から県道側をみる）	32
集礫発掘状況	
図版 3 集礫出土状況	33
図版 4 土層断面（1）	34
土層断面（2）	
図版 5 出土石器	35
図版 6 出土剥片等	36

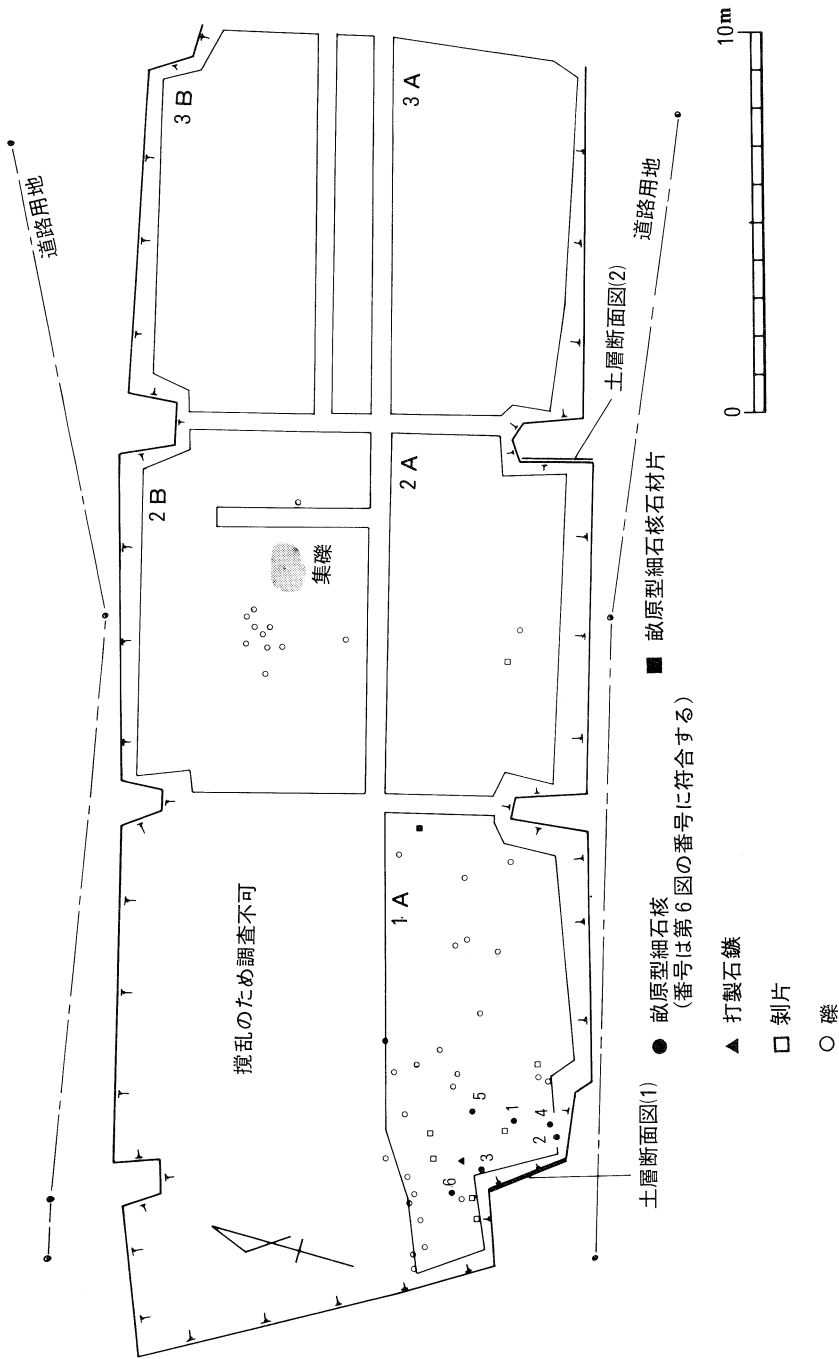
1. 遺跡の位置と調査に至る経緯

井野遺跡は、東諸県郡国富町大字八代北俣字井野2,478-2に位置する（第1図）。

南東に流れる北俣川とその支流に挟まれた段丘上、標高約64mにあり、井野の集落のほぼ中央にあたる。



第1図 井野遺跡位置図 (●印)



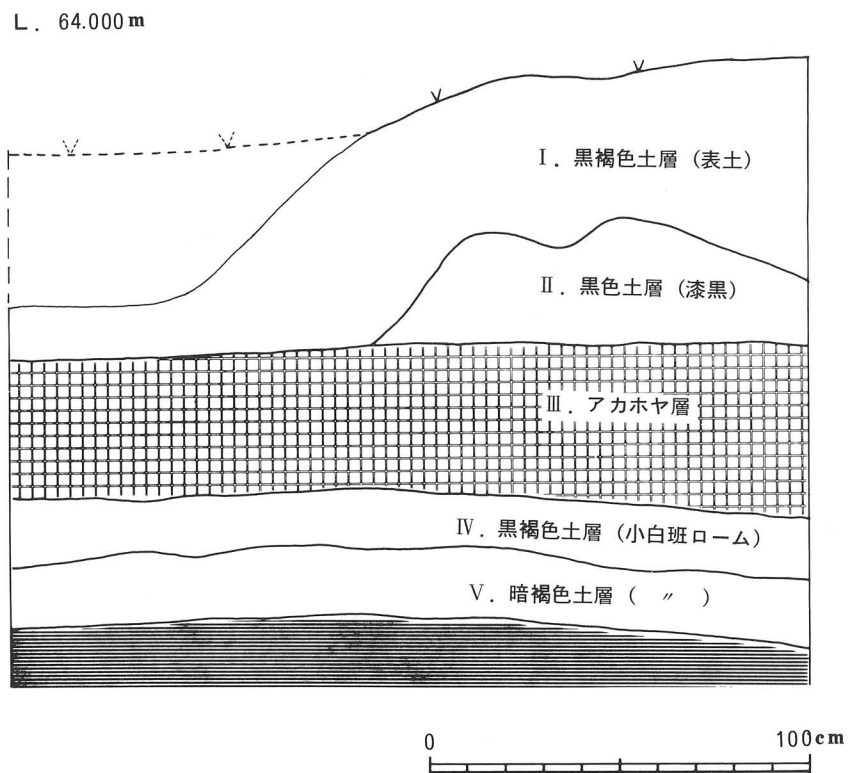
第2図 発掘調査区全体図

宮崎県中部農林振興局が平成元年度に施工する県営広域営農団地農道整備事業沿海中部Ⅱ期地区建設工事の内、国富町大字八代北俣周辺では試掘の結果、今回調査の井野遺跡においてアカホヤ層の残存状態等が良好であり、また、近くの土層断面に焼石が認められること等から縄文早期の遺跡の可能性が高いものと判断された。更に、周辺の畑地には弥生土器片と思われる遺物が散布しており、文化層が二層になる可能性もあった。

中部農林振興局との協議の結果、県教育委員会が委託を受けて、平成元年11月から12月にかけて発掘調査を実施することになった。

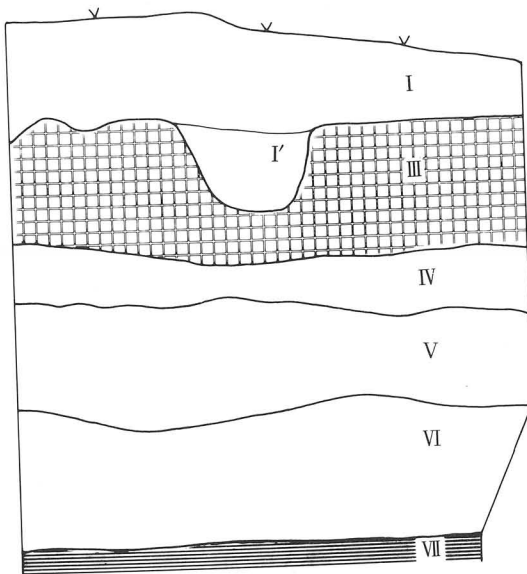
2. 調査の概要

発掘調査は文化課埋蔵文化財係長岩永哲夫、同主査宍戸章を調査員として平成元年11月10日から同12月14日まで実施した。

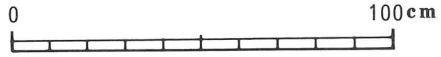


第3図 土層断面図(1)

L. 64.000 m



- I. 黒褐色土層 (表土)
- I' " (攪乱) (黒褐色土とアカホヤの混在)
- III. アカホヤ層
- IV. 黒褐色土層 (小白班ローム)
(上位にわずかにアカホヤ粒混入)
- V. 暗褐色土層 (小白班ローム)
- VI. 暗黄褐色土層 (小林軽石、暗灰褐色の小
ブロック、下位に小礫を
含む)
- VII. 段丘礫



第4図 土層断面図(2)

広域農道は県道を直角に横断する形で計画されており、調査は、先ず県道の西側の表土剥ぎから開始した。しかし、表土下のアカホヤ層まで検出したが、攪乱による掘り込み以外には特別の掘り込みはなく、弥生時代の遺構等は調査区内にはないことが判明したので、重機によるアカホヤ層除去を行った。

調査区は建設予定の道路の方向に沿って、1A～3A、2B、3Bの5区に分けた。発掘調査面積は約260㎡である。(第2図)

アカホヤ層下の精査を進めた結果、調査区の南西隅(1A区)の黒褐色土層下位から石鏝、暗褐色土層から細石核が出土し、遺物包含層は黒褐色土層下位から暗褐色土層にかけてであることが認められた。

井野遺跡の基本層序はI.表土(黒褐色土層)、II.黒色土層(漆黒)、III.アカホヤ層、IV.黒褐色土層(堅い・小白班ロームを含む)、V.暗褐色土層(堅い・小白班ロームを含む)、VI.暗黄褐色土層(小林軽石、暗灰褐色の小ブロック、下位に小礫を含む)、VII.段丘礫となっている(第3、4図)。

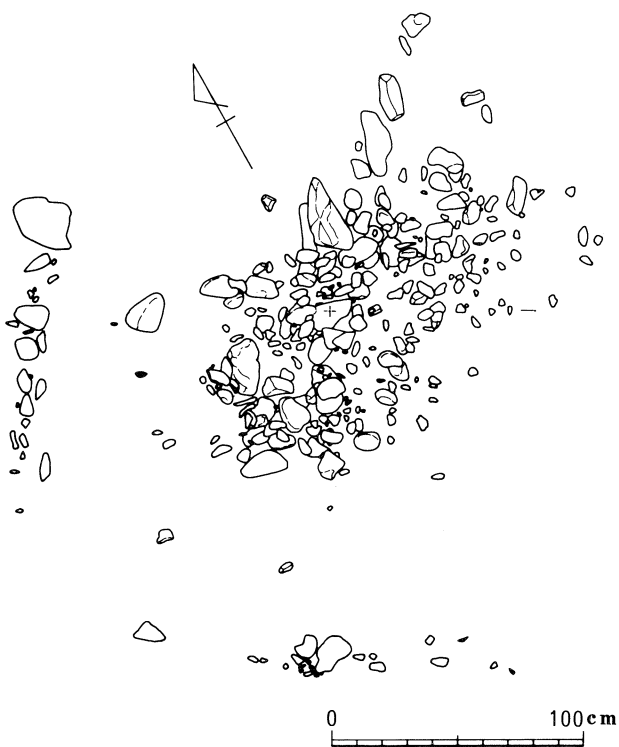
県道の東側は建物跡地で下層はコンクリートが一面に張られた状態であり、攪乱のため調査できなかった。

3. 遺構と遺物

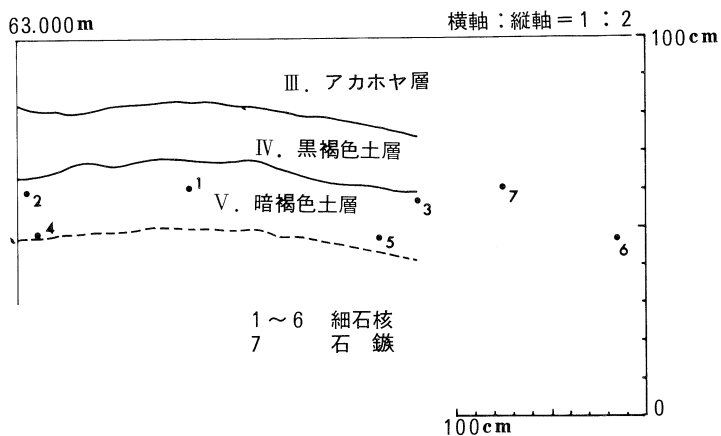
(1) 遺構

特記すべき遺構は検出できなかった。精査を進める内、2B区から礫群が現れ、焼石で構成される集石遺構かとも考えられたが、構成する礫は円礫が殆どで焼石との判断は難しく、自然集礫の可能性が高い(第5図)。暗褐色土層から暗黄褐色土層にかけて検出した。範囲は東西に長く、約2m、南北約1mである。

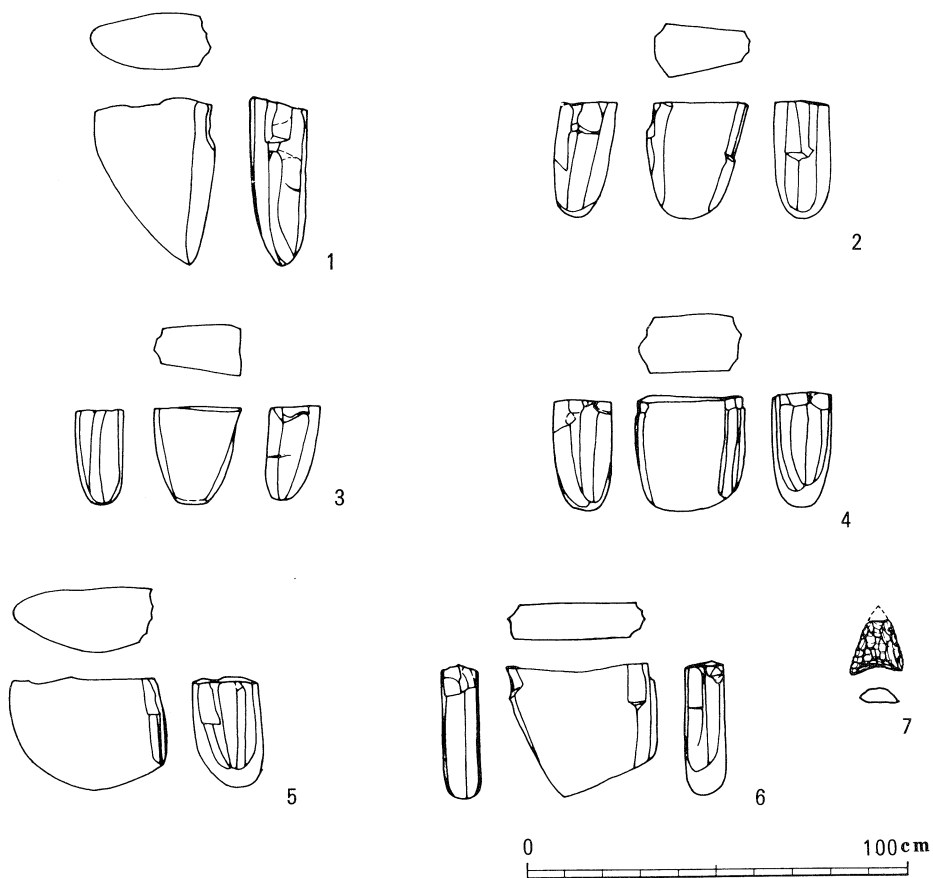
1A区において細石核等の出土した層位からある程度の量の礫が出土したが、特に意図的な配置などは感じられなかった。



第5図 集礫出土状況実測図



第6図 出土石器の土層断面(1)への投影図



第7図 出土石器実測図 (1/2)

表 畦原型細石核計測表 (単位はcm)

No.	剥離面	最大長	最大幅	厚さ	剥離された細石刃の推定値		
1	片側	4.4	3.1	1.5	0.6×4.4	0.5×4.2	
2	両側	3.0	2.5	1.4	0.5×2.7	0.5×2.8	
3	両側	2.5	2.3	1.3	0.5×2.6	0.4×2.4	0.5×2.4
4	両側	3.0	2.9	1.5	0.7×2.3	0.4×2.6	0.5×2.1
5	片側	3.0	4.0	1.7	0.4×2.2	0.2×2.1	0.3×2.3
6	両側	3.3	3.9	1.0	0.6×2.7	0.2×2.9	0.6×2.7

(2) 遺物

出土した遺物には打製石鏃、細石核及び剥片があるが、層位的には打製石鏃が上位に位置し、細石核は下位から出土している。第6図は出土地点に最も近い土層断面に遺物を投影し、層位的な関係をみたものであるが、細石核は暗褐色土層から出土したことを示すものである。打製石鏃については第6図では十分に示し得ないが、調査中の観察によっても黒褐色土層下位からの出土を確認している。

細石核は6点あり(第7図1～6)、1は凝灰質頁岩、2～6は砂岩製で畦原型とよばれるものである。主な計測値は表のとおりである。

打製石鏃は1点出土しており(第7図7)、姫島産の黒曜石製である。

その他の剥片の岩質は頁岩、黒曜石であり、いずれも石器の石材になるものである。

4. ま と め

今回の井野遺跡の調査は発掘面積は約260㎡という小規模な調査であったが、暗褐色土層から先土器時代の畦原型細石核を検出できたことは佐土原町船野遺跡の発掘調査に次ぐ2例目の検出という意味をも含めて貴重な資料を得たことになり喜ばしいことである。

畦原型細石核は西都市在住の大野寅夫氏の採集によって児湯郡を中心に広く分布することが明らかにされたものである。国富町内では、六野原から採集されている(1980茂山)。

参考文献

茂山 護・大野寅夫 「児湯郡下の旧石器」『宮崎考古』第3号 宮崎考古学会
昭52 (1977) .12

茂山 護 「畦原型細石核—大野寅夫採集石器集成 (1)—」『宮崎考古』第6号
宮崎考古学会 昭55 (1980) .10



発掘風景（県道側から西を見る）

図版 2



発掘風景（西から県道側を見る）



集礫発掘状況



集礫出土状況

図版 4

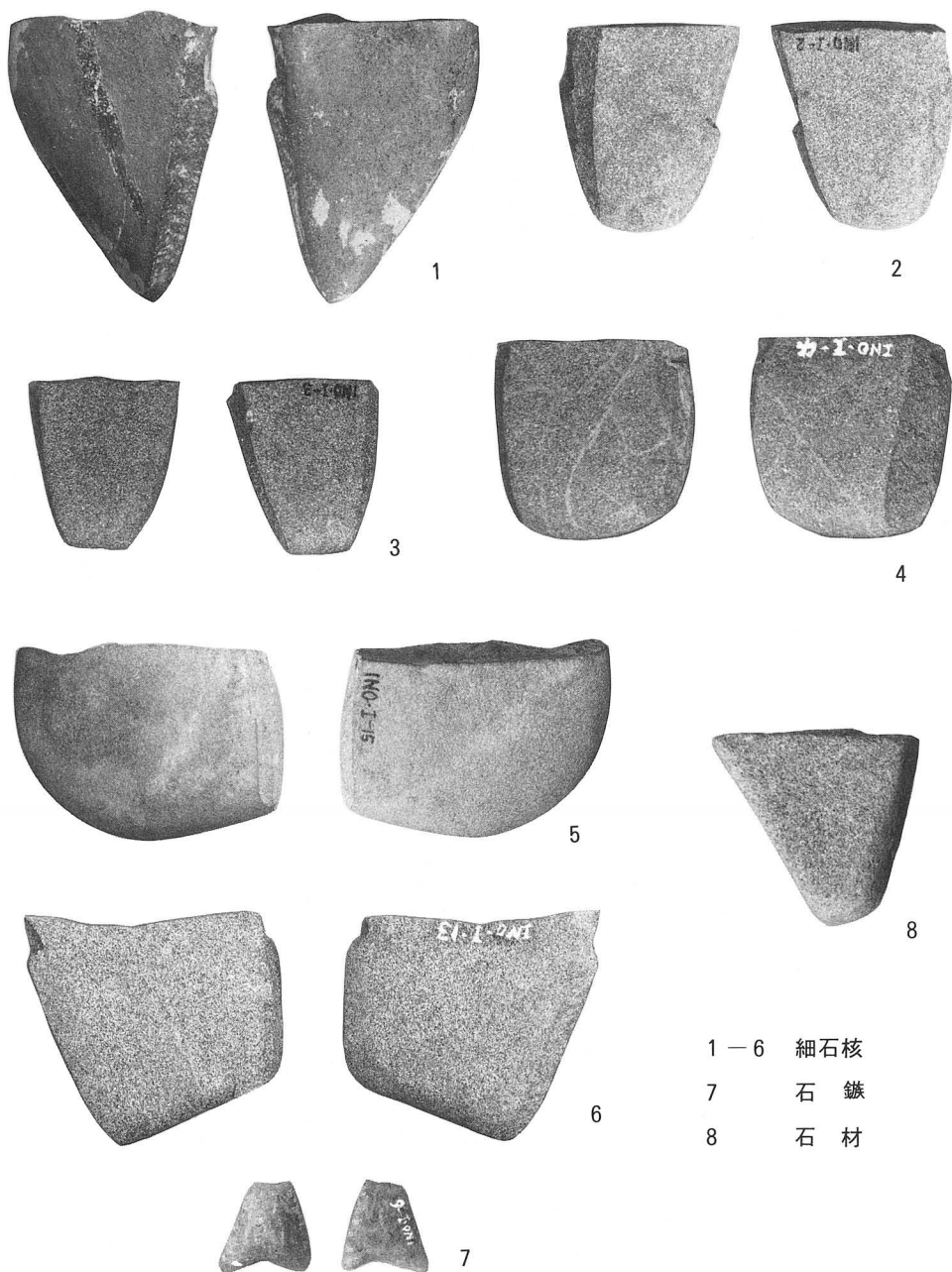


土層断面 (1)



土層断面 (2)

図版 5



- 1-6 細石核
- 7 石 鏃
- 8 石 材

出土石器

図版 6



(頁岩)



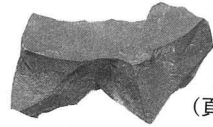
(頁岩)



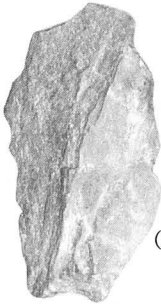
(頁岩)



(黒曜石)



(頁岩)



(緑色千枚岩)

剥片等



(頁岩)



集礫の中の1個

(頁岩)

出土剥片等

平成2年度埋蔵文化財発掘調査一覧（発掘期日、面積は発掘調査通知による）（平成3年2月現在）

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	遺構・遺物	備考
1	亀ノ甲遺跡	国富町大字三名	2. 4. 11 ～ 4. 16	町	新名祐史	120㎡ 縄文土器	ゴルフ場
2	餅田遺跡	高岡町大字浦之名字餅田	2. 4. 16 ～ 4. 17	県	石川悦雄	石器（フレイク） 剥片、土師器 青磁	確認 広域農道
3	内野々遺跡	西郷村大字田代字内野々1561-1外	2. 4. 16 ～ 8. 7	県	東 憲章	3,000㎡ 縄文集石23、弥生住居跡10 縄文土器300、弥生土器500	新林業 試験場
4	伝勝蔵院跡	都城市都島町字岳ノ下	2. 4. 16 ～ 4. 18	県	谷口武範	100㎡ 染付、陶器 軽石加工品	急傾斜 対策工 事関連 道路
5	速日峰地区遺跡	北方町大字巳	2. 4. 16 ～ 4. 27	県	面高哲郎 谷口武範	300㎡	確認 ほ場整 備
6	野久首・平原遺跡	えびの市大字東川北字野久首・字平原	2. 4. 23 ～ 8. 31	県	吉本正典 吉永真也	6,400㎡ 古墳住居跡1、掘立柱建物跡1 周溝状遺構、土壌墓、弥生土器 土師器、縄文石器	九州 縦貫道
7	取添第2遺跡	都城市都島町506	2. 4. 23 ～ 4. 28	市	矢部喜多夫	青磁等 土師器 軽石	確認 病院建 設
8	垣下遺跡	宮崎市下北方町字垣下2-1外	2. 4. 23 ～ 8. 31	市	中山 豪	8,000㎡ 溝状遺構、弥生土器 土師器、須恵器 木器、石器	住宅団 地建設
9	鳥越前遺跡	高崎町大字前田466-9外	2. 5. 8 ～ 5. 18	県	谷口武範	100㎡ 縄文土器、弥生土器 土師器、鉄滓	確認 道路改 良
10	豆付迫遺跡	高崎町大字東霧島字豆付近	2. 5. 10 ～ 5. 26	町	山 壽 薫	55.2㎡	確認 町道改 良
11	谷合遺跡	北郷町大字北河内字広渡5189-1外	2. 5. 10 ～ 8. 10	県	石川悦雄	1,800㎡ ピット、溝、縄文土器200 石器20、磁器100	広域農 道

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	遺構・遺物	備考
12	菓子野地下式横穴墓	都城市菓子野町9472-1	2. 5.11 ～ 5.12	市	矢部喜多夫	694㎡	畑地耕作
13	南遺跡	門川町大字門川尾末1038-15、1038-45	2. 5.14 ～ 5.31	町	荒武麗子	1,000㎡ 縄文土器、土師器 陶磁器	確認 土地区画整理
14	塚原跡	国富町大字塚原549-2外	2. 5.18 ～ 8.	町	新名祐史	27,903㎡ 竪穴住居跡23、土壇墓42 地下式横穴墓1	工業団地造成
15	船塚跡	宮崎市船塚3丁目210	2. 5.29 ～ 7.27	県	菅付和樹 山田洋一郎	4,000㎡ 土師器	美術館建設
16	取添城跡	都城市都島町506	2. 5.22 ～ 7.21	市	重永卓爾	1,500㎡ 青磁等、土師器 軽石	病院建設
17	二ツ山跡	田野町字二ツ山甲5651-6外	2. 5.23 ～ 6. 8	町	森田浩史	108㎡ 縄文早期集石遺構 縄文土器、縄文石器	確認 工場建設
18	下遺跡	高崎町大字東霧島字下原	2. 5.27 ～ 6. 9	町	山崎 薫	28.8㎡	確認 町道改良
19	城ノ平跡	高千穂町大字三田井字城ノ平	2. 5.28 ～ 7.12	県	飯田博之	450㎡ 縄文土器200、石器200 銅銭2	高千穂バイパス
20	久玉遺跡(第3次)	都城市郡元町3066-8.10外	2. 5.29 ～ 8.10	市	矢部喜多夫	2,000㎡ 土器、石器、鉄器 銅製品、古銭	区画整理事業
21	上南方地区(中尾原、山口)遺跡	延岡市細見町3719-5外	2. 6. 5 ～ 3. 2.28	市	山田 聡	16,000㎡ (中尾原) 弥生竪穴住居跡49、縄文土坑78、弥生土器、鉄製品、方形石包丁(山口)、掘立柱建物跡、平安~中世陶磁器、古墳時代土師器	ほ場整備
22	村上遺跡	串間市大字奈留字村上3172-23外	2. 6.11 ～ 3. 3.31	市	宮田浩二	3,300㎡ 縄文早期集石遺構 縄文土器	農地開発

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	遺構・遺物	備考
23	酒元・堂ヶ島・寺崎遺跡外	西都市大字三宅4588-1外	2. 6.15 ～ 11.30	市	藁方政幾	50,000㎡ 古墳～奈良、住居跡、溝、柱穴 V字溝、古墳周溝、集石遺溝 縄文土器、弥生土器、土師器	確認 (国庫補助事業)
24	佐土原城跡	佐土原町大字上田島字谷	2. 6.15 ～ 8.31	町	木村明史	2,500㎡ 陶磁器、須恵質土器 土師質土器、鉄器	城跡公園整備 資料館建設
25	野地町平野遺跡	延岡市野地町4丁目3867外	2. 6.12 ～ 6.21	市	山田 聡	200㎡ 中世山城石組遺構	宅地造成
26	豆付迫遺跡	高崎町大字東霧島字豆付迫	2. 6.18 ～ 7.21	町	山崎 薫	440㎡ 縄文土器、石器 土師器、陶磁器	町道改良工事
27	中牟田遺跡	山田町大字山田4319-2、4319-5	2. 6.20 ～ 8.31	町	寺師雄二	4,688㎡ 竪穴住居跡 弥生土器	地域福祉センター
28	二ツ山遺跡	田野町二ツ山甲5651-6外	2. 6.25 ～ 7.31	町	森田浩史	3,000㎡ 縄文早期集石遺構 縄文土器、縄文石器	工場建設
29	古奥遺跡	日南市大字平野字梅ヶ浜	2. 6.26 ～ 6.28	市	岡本武憲	50㎡ 土師器、須恵器	下水道工事
30	妙見原第2遺跡	都城市下水流町3377-1～3407-1	2. 7.16 ～ 8.16	県	吉本正典	250㎡ 古墳時代竪穴住居跡6軒 土師器、須恵器	県道改良工事 中方限庄内線
31	城ヶ尾遺跡・野中第1遺跡	高城町大字石山字城ヶ尾、野中	2. 7. 2 ～ 12.28	町	白谷健一	14,300㎡	ゴルフ場
32	寺山遺跡	西都市大字清水633-4外	2. 7.18 ～ 7.19	県	面高哲郎		確認 ほ場整備
33	天神河内第2遺跡	田野町大字天神内内	2. 7.23 ～ 7.27	県	面高哲郎	300㎡	確認 天神ダム

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	遺構・遺物	備考
34	桑田跡	えびの市大字上江字桑田	2. 7.23 ～ 9.10	市	中野和浩	2,000㎡ 縄文晩期溝、土坑、中世土坑、縄文晩期土器、石器 土師質土器、緑釉	上江地区体育館建設
35	島内跡	えびの市大字島内字王子原2044-33	2. 7.24 ～ 7.26	市	中野和浩	12㎡	確認 駐車場
36	上遺宮跡	西都市大字三宅字上ノ西宮3539-7-10	2. 7.25 ～ 7.31	市	蓑方政幾	30㎡ 土坑、溝、土師器、須恵器 陶磁器、弥生土器、石器	確認 雨天練習場
37	天神河内第1遺跡	田野町大字天神内内	2. 7.25 ～ 12.27	県	菅付和樹	3,000㎡	天神ダム
38	下大五郎遺跡	都城市丸谷町3087-1外	2. 7.30 ～ 10.30	県	山田洋一郎	4,000㎡ 弥生竪穴住居跡、弥生掘立柱建物跡、弥生溝、弥生土器 土製勾玉石器、ガラス小玉	河川改修
39	上岩知野遺跡	国富町大字岩知野字松本1641外	2. 8.9 ～ 11.30	県	東憲章	2,200㎡ 弥生竪穴住居跡、縄文早期集石遺構、近世陶磁器 弥生土器、縄文土器	農免農道
40	屏風谷第1遺跡	都城市上水流町4201外	2. 8.20 ～ 8.31	市	柴畑光博	280㎡ 土師器、石器 土製品、陶磁器	確認 木材置場
41	田代八重遺跡	須木村大字中原字田代八重	2. 8.22 ～ 11.20	県	吉本正典	5,000㎡ 土坑、住居様遺構 縄文土器、土師器 陶磁器、石器	田代八重ダム
42	東草場跡	日向市大字富高6980外	2. 8.27 ～ 9.12	市	緒方博文	5,000㎡ 前方後円墳墳端部 縄文土器、弥生土器 剥片	確認 公園計画
43	八重地区(砂田地区)遺跡	田野町乙2763外	2. 8.27 ～ 3. 3.31	町	森田浩史 長友郁子	8,000㎡ 縄文早期集石遺構 縄文後期土坑、早期土器 後期土器、石器	ほ場整備
44	中野第2遺跡	高崎町大字東霧島1151、1547-1、1554	2. 9.3 ～ 9.14	町	山寄薫	44㎡ 土師器 陶磁器	確認 町道改良

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	遺構・遺物	備考
45	池ノ友遺跡	都城市早水町4503	2. 9. 3 ～ 12.27	市	柴畑光博	4,000㎡ 弥生竪穴住居跡 中世掘立柱建物跡 弥生土器	厚生年金健康福祉センター
46	宗栄司遺跡	高岡町大字小山田宗栄司2048 外	2. 9. 3 ～ 9. 7	町	島田正浩	60㎡ ピット、土器 石器	確認農園
47	宮大教育学部遺跡	宮崎市船塚1丁目1番地 外	2. 9. 3 ～ 9. 8	市	中山豪	45,954㎡	確認
48	車坂・山下遺跡	宮崎市大字加江田字犬ノ馬場461-ハ 外	2. 9. 3 ～ 12.14	市	中山豪	11,204㎡ 弥生竪穴住居跡 集石遺構	土地区画整理
49	蔵田地区遺跡	北方町辰	2. 7. 1 ～ 9.30	町	小野信彦	2,500㎡ 土師器、陶磁器 石器	農免農道排水路
50	速日峰地区遺跡	北方町巳	2. 8. 1 ～ 3. 3.31	町	小野信彦 飯田博之	13,000㎡	ほ場整備
51	上宮遺跡	西都市大字三宅3539-7 外	2. 9. 5 ～ 11.20	市	日高正晴	3,648㎡ 弥生土器、土師器 須恵器、陶磁器	野球雨天練習場
52	餅田遺跡	高岡町大字浦ノ名字餅田	2. 9.20 ～ 10.17	県	東憲章	900㎡ 中近世陶磁器、土師器	広域農道
53	鬼ヶ浄土遺跡	諸塚村大字家代字浅藪	2. 9.12 ～ 9.14	県	面高哲郎	50㎡	確認大規模林道
54	寺崎遺跡	西都市大字右松2825-1 外	2. 9.17 ～ 3. 3.22	県	長津宗重	100㎡ 掘立柱建物跡 縄文土器、土師器、須恵器 石器、瓦、勾玉	確認国衙郡衙分布調査
55	長江浦地区遺跡	えびの市大字西長江浦492-1 外	2. 9.17 ～ 3. 1.31	市	中野和浩	8,600㎡ 縄文前期～後期土器 縄文土坑、古墳住居跡、土師器、ガラス玉、管玉、朱玉	ほ場整備

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	遺構・遺物	備考
56	樺山郡元地区遺跡	三股町大字樺山字花見原 外	2. 9.18 ～ 3. 3.31	県	山田洋一郎	14,000㎡ 溝状遺構	年見川河川改修
57	横小路遺跡	清武町大字木原5232-2	2. 9.20 ～ 9.22	町	伊東 但	30㎡ 縄文早期土器	確認 特別養護老人ホーム
58	宮水流第1(八児)遺跡	高岡町大字下倉永402 外	2. 9.20 ～ 10.5	県	石川悦雄	300㎡ 方形住居跡1、(7C) 土壇墓1、石鍋2 合子1、銅鏡1	県道改良
59	日知屋城跡	日向市大字日知屋字伊勢道189-7	2. 10.1 ～ 10.31	市	緒方博文	17,000㎡ 掘立柱建物跡 集石、陶磁器	確認 公園整備
60	崩遺先跡	串間市大字西方字崩先7364 外	2. 10.11 ～ 3. 1.18	県	石川悦雄	2,000㎡ 地下式横穴墓 有蓋土壇墓 鉄器、土器	広域農道(沿海南部2期)
61	木遺花跡	宮崎市大字熊野字木花96213	2. 10.11 ～ 10.31	市	野間重孝		公園整備
62	上山ノ丸遺跡	清武町大字加納字中原北ノ迫丙1181 外	2. 10.15 ～ 11.16	県	長津宗重	1,425.3㎡ 縄文土器、石器 土師器	県道改良
63	老瀬坂上第2遺跡	高鍋町大字上江字老瀬坂上6013-3	2. 10.1 ～ 10.20	町	山本 格	1,000㎡ 土器、石器 金属製品	農地造成(確認)
64	寺遺山跡	西都市大字清水633-4	2. 10.15 ～ 12.25	市	蓑方政幾	2,400㎡ 弥生竪穴住居跡、溝、柱穴 土坑、方形周溝状遺構、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器	ほ場整備
65	瀬戸ノ上遺跡	都城市都島町1279 外	2. 11.13 ～ 11.17	市	柴畑光博	32㎡	宅地造成
66	高鍋城跡	高鍋町大字南高鍋字旧城内6939-5	2. 11.14 ～ 11.22	町	山本 格	100㎡	確認 公園整備

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	遺構・遺物	備考
67	新田原群 古墳	新富町大字 新田14990 -1 外	2. 11.15 ~ 11.20	県	面高哲郎		確認 ほ場整備
68	蕨野跡	高岡町大字 花見字蕨野 2570-1 外	2. 11.16 ~ 12.10	町	島田正浩	1,000㎡ 土坑、焼成土坑 土師器	土砂採取
69	宮ノ下跡 遺跡	都城市金田 町1228-21	2. 11.19 ~ 12.18	市	林 皆子	500㎡	公園整備
70	原口跡 遺跡	西都市大字 三宅字原口 二ノ西3684 -1 外	2. 11.19 ~ 3. 2.16	市	日高正晴	2,640㎡ 竪穴住居跡 土坑、柱穴、溝	道路改良
71	西原第2跡 遺跡	都城市久保 原町 8602 外	2. 11.28 ~ 12. 8	市	矢部喜多夫	28,331㎡	確認 小学校建設
72	橋山跡 遺跡	高岡町大字 花見字橋山、 字池ノ内	2. 12. 1 ~ 3. 2.28	町	島田正浩	2,000㎡ 縄文集石遺構 縄文早期土器	企業団地
73	鬼塚跡 遺跡	小林市大字 南西方6388 -1 外	2. 11.7 ~ 12.28	市	中村真由美	2,000㎡	ほ場整備
74	東原1号地 下式横穴墓	国富町大字 塚原字東原 607.609	2. 11.19 ~ 11.20	町	新名祐史	8㎡	水道管敷設
75	林ノ王跡 遺跡	国富町大字 八代南俣字 林ノ王2662 -9.2665-2	2. 11.26 ~ 12. 5	町	新名祐史	500㎡ 集石遺構 3	
76	原田上江跡 遺跡群	えびの市大字 上江字六 部市	2. 12.3 ~ 3. 1.31	市	東 憲章	2,000㎡	ほ場整備
77	木場城跡	高崎町大字 繩瀬字中尾 4956	2. 12.3 ~ 12.27	町	山 崎 薫	300㎡ 竪堀、土塁	公園造成

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	遺構・遺物	備考
78	三幸ヶ野遺跡	串間市大字一氏1319-1 外	2. 12.10 ～ 12.14	県	面高哲郎	200m ² 集石遺構 縄文早期土器	確認 ほ場整備
79	南町遺跡	門川町大字門川尾末1012.1056.1072 外	2. 12.10 ～ 3. 3.20	町	窪田麗子	2,000m ² 縄文土器、土師器 陶磁器	土地区画整理
80	穂北城跡	西都市大字穂北字谷ノ前4815-3 外	2. 12.12 ～ 12.27	県	長友郁子	3,131m ² 竪堀 土錘、土師器	県道改良
81	土器田平廻1号横穴墓	佐土原町大字下那珂字平廻4856-21	2. 12.14 ～ 3. 1	町	木村明史	100m ² 須恵器、鉄鏃 耳環、人骨	土砂採取
82	下大五郎(丸谷地区)遺跡	都城市丸谷町1495-1 外	2. 12.19 ～ 3. 1.31	県	吉本正典	1,996m ² 弥生竪穴住居跡 古代溝	
83	細田古墳	日南市大字下北字仮屋西1-1 外	2. 12.20 ～ 12.25	市	岡本武憲	453m ² 竪穴式石室	確認
84	屏風谷第1遺跡	都城市上水流町4201	3. 1.4 ～ 3.31	市	重永卓爾 飯田博之	4,020m ²	木材置き場
85	穆佐城跡	高岡町大字小山田925-10	3. 1.7 ～ 1.11	町	島田正浩	200m ² ピット、土師器 陶磁器	確認(遺跡詳細分布調査)
86	西ノ原第2遺跡	宮崎市大字熊野字西ノ原	3. 1.7 ～ 6.30	市	中山 豪		ほ場整備
87	大年谷遺跡	須木村大字下田1151	3. 1.10 ～ 2.15	村	岩永哲夫 吉本正典	2,000m ² 古墳住居跡1 縄文集石8、押型文、石鏃	福祉施設
88	三納代地区遺跡	新富町大字三納代	3. 1.16 ～ 3.31	県	石川悦雄	3,000m ²	鬼付女川河川改修

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	遺構・遺物	備考
89	百町原地区 遺跡	日向市美々 津町1093-1 外	3. 1.18 ～ 1.23	県	面高哲郎	500㎡	確認 ほ場整 備
90	権現迫 遺跡	国富町大字 八代北俣字 権現迫3115	3. 1.22	町	新名祐史	200㎡ 集石	
91	椎屋形 遺跡	宮崎市大字 細江、椎屋 形	3. 1.22 ～ 1.23	県	面高哲郎	200㎡	確認 ほ場整 備
92	長江浦地区 遺跡	えびの市大 字西長江浦 874 外	3. 1.28 ～ 2. 1	県	面高哲郎	300㎡	確認 ほ場整 備
93	学頭 遺跡	高岡町大字 下倉永687- 1、686-1	3. 1.28 ～ 2.15	県	北郷泰道	330㎡ 弥生竪穴住居跡、溝 弥生土器、土師器	県道改 良
94	築池地下 式横穴墓	都城市水流 町2569	3. 1.29 ～ 2. 2	市	矢部喜多夫	230㎡	消防団 車庫建 築
95	角上原地区 遺跡	清武町大字 今泉丙字三 角掘 外	3. 1.30 ～ 3.31	町	伊東 但	5,000㎡	ほ場整 備
96	飫肥城下町 遺跡	日南市大字 楠原字舞鶴 跡4237-1 外	3. 2.12 ～ 3.31	市	岡本武憲	3,268㎡	確認 国際交 流セン ター
97	西山寺 遺跡	日南市大字 板敷字西山 寺7580 外	3. 2.12 ～ 3.31	市	岡本武憲	5,400㎡	確認 宅地開 発

平成2年発行 宮崎県市町村教育委員会発行埋蔵文化財調査報告書一覧

	書名	遺跡名	執筆者名	時代	種類	発行機関
1	宮崎県文化財調査報告書 第33集	園田遺跡C地区 松ヶ迫B遺跡 前畑遺跡	近藤 協 永友良典 岩永哲夫 吉本正典	弥生～古墳 弥生 縄文・近世	集落跡 周溝状遺構 基地	宮崎県教委
2	国衙・郡衙・古寺跡等遺跡 詳細分布調査概要報告書Ⅱ	国分寺跡 下尾筋遺跡	北郷 泰道	奈良	寺院跡	宮崎県教委
3	平成元年度農業基盤整備事業 に伴う発掘調査概要報告書	西ノ原第2遺跡 上南方地区遺跡 下大五郎遺跡 長江浦地区遺跡 八重地区遺跡 三幸ヶ野地区遺跡	面高 哲郎	縄文・平安 縄文～古墳 弥生～古墳 縄文・平安 縄文 縄文	(試掘)	宮崎県教委
4	九州縦貫自動車道(人吉～ えびの間)埋蔵文化財試掘 調査報告書	天神後第2遺跡 妙見遺跡 野久首遺跡 平原遺跡 彦川遺跡	近藤 協	縄文 縄文～弥生 弥生～古墳 縄文～弥生 —	(試掘)	宮崎県教委
5	一般国道10号土々呂バイパス 建設関係発掘調査報告書	林遺跡	北郷 泰道 近藤 協	旧石器 古墳 古代	集落跡	宮崎県教委
6	県営農林漁業用揮発油税財 源身替農道整備事業瓜生野 地区に伴う発掘調査報告書	金剛寺原第1遺跡 金剛寺原第2遺跡	野間重孝 高松永治 宮下貴浩	旧石器 旧石器	集落跡	宮崎市教委
7	宮崎市遺跡等詳細分布調査 報告書Ⅱ(リゾート地区を 中心として)	分布調査				宮崎市教委

	書名	遺跡名	執筆者名	時代	種類	発行機関
8	宮崎市文化財調査報告書	柿木原地下式横穴墓 56-1号 江田原第1遺跡	野間重孝 荒武麗子	古墳 古墳～古代	地下式 横穴墓	宮崎市教委
9	蓮ヶ池横穴群保存整備事業 概報Ⅳ（平成元年度計測調査概報）	蓮ヶ池横穴群	野間重孝	古墳	横穴群	宮崎市教委
10	佐土原町文化財調査報告書 第4集 佐土原町遺跡詳細分布調査報告書	分布調査				佐土原町教委
11	清武町埋蔵文化財調査報告書第4集 清武町遺跡詳細分布調査報告書	分布調査				清武町教委
12	田野町文化財調査報告書 第9集 県営農地保全整備事業八重地区に伴う埋蔵文化財発掘調査概要	前畑第1遺跡	森田浩史	縄文	集石遺構	田野町教委
13	田野町文化財調査報告書 第10集 田野町遺跡詳細分布調査報告書	分布調査				田野町教委

	書名	遺跡名	執筆者名	時代	種類	発行機関
14	田野町文化財調査報告書 第11集 県営農地保全整備事業七野 地区に伴う埋蔵文化財発掘 調査報告	丸野第2遺跡	長津宗重 菅付和樹	縄文～弥生	集落跡 集石遺跡構 土坑	田野町教委
15	日南市埋蔵文化財調査報告 書第1集 日南市遺跡詳細分布調査報 告書Ⅰ（鶴戸・東郷・飢肥 ・吾田地区）	分布調査				日南市教委
16	串間市遺跡詳細分布調査報 告書（Ⅰ）	分布調査				串間市教委
17	串間市文化財調査報告書 第3集 県営農地開発事業奈留地区 に伴う埋蔵文化財発掘調査 概報	奈留地区遺跡 留ヶ字戸遺跡 開尾遺跡	野下賢良 吉本正典	縄文 縄文～弥生	土坑	串間市教委
18	北郷町文化財調査報告書 第1集 北郷町遺跡詳細分布調査報 告書	分布調査				北郷町教委
19	南郷町文化財調査報告書 第1集 南郷町遺跡詳細分布調査報 告書	分布調査				南郷町教委

	書名	遺跡名	執筆者名	時代	種類	発行機関
20	南郷町文化財調査報告書 第2集	崩野遺跡	永友良典	縄文 中世～近世	集落跡 集石遺構	南郷町教委
21	都城市文化財発掘調査報告 書第11集 平成元年度遺跡発掘調査報 告	久玉遺跡 (第2次調査) 野々美谷城跡 向原第1・2遺跡 竹山・胡麻ヶ野地区 遺跡	矢部喜多夫 柴畑光博 柴畑光博	中世～近世 中世 弥生 縄文～弥生	集落跡 城跡 集落跡 (試掘)	都城市教委
22	都城市文化財調査報告書 第12集 市内遺跡詳細分布調査報告 書(市内北西部)	分布調査				都城市教委
23	高崎町文化財調査報告書 第2集	様屋敷第1・第2遺 跡 木場城跡	北郷泰道	近世 中世	館跡 城跡	高崎町教委
24	小林市文化財調査報告書 第1集 県営出の山地区圃場整備事 業に伴う埋蔵文化財発掘調 査概要	水落遺跡	黒木英夫 長津宗重 長友郁子	弥生 中近世	集落跡	小林市教委
25	小林市文化財調査報告書 第2集 県営二原地区圃場整備事業 に伴う埋蔵文化財発掘調査 概要	東二原地下式横穴墓 群	長友郁子 上別府優	古墳	地下式 横穴墓	小林市教委

	書名	遺跡名	執筆者名	時代	種類	発行機関
26	えびの市埋蔵文化財調査報告書第5集 市道坂元 畑線外2線整備 工事に伴う埋蔵文化財発掘 調査概要	広畑遺跡	中野和浩	弥生～古墳	集落跡 地下式横 穴墓	えびの市教委
27	えびの市埋蔵文化財調査報告書第6集 上江・池島地区県営圃場整備 事業に伴う埋蔵文化財調査 報告(1)	永田原遺跡 小木原遺跡群蔵地区 口ノ坪遺跡	中野和浩			えびの市教委
28	野尻町文化財調査報告書 第4集 漆野原県営圃場整備事業に 伴う埋蔵文化財発掘調査報 告	新村遺跡 高山遺跡 東城原第1・第2第 3遺跡 紙屋城遺跡	日高孝治 北郷泰道 近藤協	旧石器～ 縄文 縄文 中世	集落 集落 城跡	野尻町教委
29	西都市埋蔵文化財発掘調査 報告書第9集 宮崎県営農村基盤総合整備 パイロット事業送水管理工 事に伴う調査報告	丸山遺跡	緒方吉信	縄文・古墳	土坑	西都市教委
30	西都市埋蔵文化財発掘調査 報告書第10集 県営農地保全整備事業(岩 郷原地区)に伴う埋蔵文化 財発掘調査報告	中原遺跡 (中原城跡)	緒方吉信 藪方政幾	縄文～古墳 中世	集落跡 城跡	西都市教委

	書名	遺跡名	執筆者名	時代	種類	発行機関
31	西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第11集	上尾筋遺跡 下尾筋遺跡	日高正晴 緒方吉信 蓑方政幾	弥生～古墳 古代	集落跡	西都市教委
32	木城町文化財調査報告書第2集	永山古墳 山塚原古墳群	永友良典 長津宗重 石川悦雄 菅付和樹	古墳	古墳	木城町教委
33	都農町文化財調査報告書第3集 県営圃場整備事業（都南地区）に伴う調査報告	新別府下原遺跡	長津宗重	弥生	集落跡	都農町教委
34	延岡市文化財調査報告書第4集	今井野遺跡	山田 聡	縄文～弥生	集落跡	延岡市教委
35	延岡市文化財調査報告書第5集	片田遺跡（概報）	山田 聡 高松永治	旧石器	集落跡	延岡市教委
36	東郷町文化財調査報告書第2集 県営圃場整備事業（坪谷川地区）に伴う発掘調査概要報告書	樋田遺跡	中谷 敏 谷口武範	縄文～弥生 中世～近世	集落跡	東郷町教委
37	五ヶ瀬町文化財調査報告書第1集	下赤谷横穴墓群	北郷泰道	古墳	横穴墓	五ヶ瀬町教委
38	北方町文化財調査報告書第1集	笠下遺跡	小野信彦	旧石器～縄文・中世	集落跡	北方町教委
39	埋蔵文化財調査研究報告Ⅲ	下北方古墳 —遺物編—	永友良典 津隈久美子	古墳	古墳	宮崎県総合博物館

宮崎県文化財調査報告書

第34集

平成3年3月

発行 宮崎県教育委員会

編集 宮崎県教育庁文化課